

# 地方リーダーと一般有権者（一） —比較分析—

大石 紘一郎

## 目 次

- I 序
- II 基本的属性
- 補1 Yule's Q, 条件 Q, Q の信頼区間および GAMMA
- 補2 地方リーダーに対する調査票（以上本号）
- III 政治・社会状況の認識および問題の解決（以下続稿）

## I 序

都会を離れ、静穏な町や村にも政治はある。政治があるからには、たとえ固定的ではなくとも、そこにもっぱら人々を支配し、町や村の政治をリードする人々と、その支配ないし政治を受けいれている人々がある。前者がここで仮定する地方リーダー（local leaders）であり、後者が一般有権者（local people）である。しかし町と村は小さい。貧富の差とはいっても、たかがしれているかもしれない。自転車で村を走りまわり、村人と親しく話を交わす村長もいる<sup>①</sup>。地方リーダーといい一般有権者というも、とりたてていふほどの違いが果たして両者にあるのだろうか。地方リーダーに焦点を合わせた研究は数多い。しかし、地方リーダーと一般有権者に同じ質問を發した、意識的な両者の対照比較から、地方リーダーの諸特性を浮き彫りにし、さらに両者間のさまざまな関連を検討した研究は、そう多くない<sup>②</sup>。

本稿は、前稿「地方リーダーの意識と行動 —一般有権者との比較分

## 地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

析一」(1978)の後をうけ、同一のデータ・セットを使用しながら、地方リーダーと一般有権者の政治的意識や行動について、より精細な分析を施そうとするものである<sup>③</sup>。前稿では、慎重に設計された層化3段抽出法により、日本全国から区部、市部、郡部あわせて200地点が選定されたうちの郡部のみ64地点、すなわち町と村におけるリーダーと一般有権者の間で、その意識と行動が対照比較された。それは、地方リーダーのデータ・セットと一般有権者のデータ・セットを別々に単純集計した結果を、調査票にあった質問への回答をできるだけそのままに保持しながら、対照比較したものである。つまり形だけは2変数クロス集計であった。一般有権者を対象とする全国調査についての中間報告である、池内一編『市民意識の研究』(1974)は、人々の意識や政治とのかかわりを広汎に明らかにしたが、これも分析の方法は主として2変数クロス集計であり、その序章にいうように、いわば初等的なレベルにおける調査結果の報告である<sup>④</sup>。

単純ではあるが一応の比較は、すでに前稿によってなされている。本稿では、町および村のリーダーと一般有権者における、政治的・社会的な意識や行動の類似と相違を、2変数クロス集計だけでなく、3変数ないし4変数のクロス集計でみることによって、いっそう精確なものにしてみよう。そのことは、一方で情報を思い切って単純化し、他方で分析を多次元的にすることにより果たされる。すなわち各変数のカテゴリー分けは、可能な限り2分、ないしせいぜい3分割にとどめ、各 cell に一定の度数が確保されるよう配慮した上で、クロス集計が次々に進められる。こうして本稿のスタート地点は、前稿の到達点である。前稿へは頻繁に引照することになるので、ここで前稿の最後に記した要約と、今後の作業への展望を再録しておくのが有益であろう：

「日本全国の64町村より選ばれた484人の地方リーダーについて、彼らの政治・社会的意識および行動の主要な特徴を、一般有権者と対照比較しながら記述した。政治、教育、産業の各界における9つの指導的地位にある人々を選び出したが、そのうち99%近くは男であった。同じ地点から

## 地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

の一般有権者の男女比はほぼ半々である。そしてそのリーダーの8割以上は50歳を越えていた。地方リーダーはまず男であり、またかなりの年配者である。彼らは比較的長くその地に住んでおり、一般有権者に比べれば学歴も高く、従って最初に就いた職業も、地域性を反映して農林漁業の割合はかなり多いけれども、専門・技術・管理的職業およびホワイト・カラー職の割合が、一般有権者に比べて断然多い。以上のことからリーダーは、一般有権者に収入の面でもかなりの差をつけている。彼らの半数近くは仏教を信じ、従って彼らにとって宗教は、一般有権者にとってよりも重要な意味をもっている。

彼らは町村がこうむる、時代による変化を、敏感にしかもより大きな視野で概念的に捉え、ことばで表現、列举する。経済状況、人口動態、交通等を含む諸施設、教育文化等における変化があげられるが、それらは同時に地域がかかえる問題としても認識され、彼らの手に余る人口移動の問題を除いて、その解決が志向される。地域内・外の具体的な解決者を一般有権者よりも多く列举し、解決にあたる地域内外エリートへの期待感、信頼感も強い。彼らはまた各種集会等により地域の人々の意見、要求を知り、彼ら自身の所へ持ちこまれる問題も多い。それらは地域がかかえる問題と重なっており、その解決に骨折っている。しかし彼ら自身は、問題の最終的解決よりも、むしろその問題を人々に認知させることが、自己の重要な役割と感じている。そしてリーダーの半数以上は、住民自身に自主解決の意欲はあると思っている。

彼らの以上のような政治・社会状況の認識および問題解決への志向を補強ないし進展、確保させるものとして、彼らのひんばんな「外」の世界との接触がある。彼らは一般有権者よりも断然多くその都道府県庁所在地を訪問し、また主として東京であるが、政治的、社会的、経済的諸価値の集中する大都市を訪れる。そのような活動を通じて地方リーダーは、地方の一般有権者がほとんど経験することのない、都道府県あるいはさらに国といった、地域外の各種の政治・行政エリート達に接触する。この地域外エ



## 地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

リートとの、一般有権者と比較にならない度重なる接触は、地方リーダーと一般有権者とを分ける決定的な点の1つであろう。

彼らの政治活動も活発であり、政治関心は強い。色々な政治問題や日本の現状などについての知識を、速報性に秀でるテレビ・ラジオよりも、まず第一に新聞から得ている。といって前者を利用しないというのではない。しかし新聞あるいは雑誌からの知識は、より詳細でかつ体系的であろう。彼らは政治問題を職場の同僚や、また当の政治家や役人と積極的に議論している。そして彼らの支持する政党は、圧倒的に既存秩序を担う自民党であり、その支持の度合も一般有権者よりは強い。彼らはその地域に存在する各種団体にも、大半は複数個加入し、そこにおける活動も活発である。団体には地域の問題解決を志向するものもあり、そこにおける積極的会員活動を通じて、政治的関心、意識も高まってゆこう。従って彼ら自身が団体を結成し、地域の問題解決を計り努力した経験も、一般有権者に比べて段違いに豊富である。政治信頼という点では、都道府県レベルのエリートについては、民衆の欲求を十分理解していると思うリーダーが一般有権者よりも多い。しかし国レベルの政治・行政エリートについては、一般有権者と軌を一にし、多くは民衆の欲求をあまり理解していないとみなしている。

以上が、我々のデータが示す限りでの、日本の地方リーダーの素描である。これからの課題としてまずやっておくべきことは、リーダーと一般有権者の2つのデータ・セットを融合し、本稿で見た多くの相関ないし関連、例えばリーダーは収入が高いが一般有権者は低いといった関係を、パーセントの差でなく、例えばGAMMA等の係数で表わすということであろう。これにより関係の強さの度合の目安を、より正確に得ることができる。またリーダーおよび一般有権者の各データ・セット内での各種クロス集計は、変数が共通する限り、直接比較可能である。ついで、これは最も重要なステップの一つであるが、初めにも触れたように、性と年齢によるコントロールである。本稿でのような対照比較は、まず基本的に重要な確

認すべきことではあるが、真の関連の確定を目指すからには、ある特定の要因だけが及ぼす影響を、できるだけ純粹に確定しなければならない<sup>⑤</sup>」。

前稿で得られた以上のような分析結果をより精確にするために、本稿で一貫して多用するのは、順序尺度以上の2変数クロス集計表において、そこにある関連(相関)の度合を示す簡便な指標である、ガンマー(GAMMA)係数である。グッドマン(L. Goodman)とクラスカル(W. Kruskal)の考案になる GAMMA 係数は、 $2 \times 2$  のクロス集計表の場合には、ユールの Q 係数(Yule's Q)に一致し、その場合には、変数が名義尺度のレベルでも解釈可能である<sup>⑥</sup>。どちらか一方、または両方の変数のカテゴリー数が2以上になる、一般的な  $R \times C$  のクロス集計表に適用可能な GAMMA は、Q 係数の一般化である。間隔尺度以上の2変数間の直線的な関連を示す、通常  $r$  で表わされるピアソンの積率相関係数が、 $-1$  と  $+1$  の間の値をとり、その各値に慣習的な解釈が付けられるのと同様に、GAMMA および Q も  $-1$  と  $+1$  の間で変異し、その各値は、たとえば以下のように解釈するのが適当とされる。

表 I-1 Q（または GAMMA）の値に対する慣習的な表現法<sup>⑦</sup>

Q（または GAMMA）の値	表現法の例
0.00	関連（相関）なし
0.01—0.09	ほとんど関連なし
0.10—0.29	わずかに関連あり（弱い関連）
0.30—0.49	かなりの関連あり
0.50—0.69	相当に強い関連あり
0.70—	非常に強い関連あり

以上は、Q（または GAMMA）の正の値に対する正の関連についての表現法であり、絶対値が同じ負の値に対しては、同様の表現を負の関連に対して適用する。

前稿の序の部分でも記したように、地方リーダーとしてやや恣意的に選ばれたのは、町村長、町村議会議長、同副議長、教育長、有力中学校長、

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

表 I-2 地方リーダーのタイプ

地 位	実 数	相対度数%
1. 町村長	56	11.6
2. 町村議会議長	57	11.8
3.       " 副議長	55	11.4
4. 教育長	60	12.4
5. 有力中学校長	58	12.0
6. 農（漁）協組合長	58	12.0
7.       " 専務理事	54	11.2
8. 商工会会長	48	9.9
9.       " 専務理事	38	7.9
合       計	484(人)	100.0(%)

有力農協，漁協の理事長，同専務理事，商工会会長，同専務理事の9つの地位にあった人々である。各地位から実際に何人が面接，調査されたかは表I-2のとおりであり，全国64地点（町村）から，合計484人のサンプルが得られた。他方，同地点からの一般有権者のサンプルは，今回は805人である<sup>⑧</sup>。リーダーと一般有権者とも，町からのサンプルは約72%，村からのサンプルが約28%である。また，新潟，長野，静岡を境に北東日本（それら3県を含む）と南西日本に分ければ，リーダーと一般有権者のサンプルとも，ほぼ半々ずつがその両地域から抽出されている。次頁のCHART 1および2にこのことは図示されている。なお図中，LPおよびLLは，それぞれ一般有権者（Local People）と地方リーダー（Local Leader）を意味している。また，全体で100%を示す長方形内部の数値は，それぞれのカテゴリーのパーセント値を，長方形の外の（ ）内の数値は実際のサンプル数を示す。対照比較が一目でできるように，100%の長方形を接触して図示し，その下に，関連の度合を量的に示すQまたは，GAMMAの値を記すことにする。

分析の第一のステップであった前稿の引用からわかるように，地方リーダーと一般有権者の間には，基本的な属性，政治・社会的な意識や行動といった点で，かなり顕著な対照がみられた。しかしここでの基本的な仮設



は、果たしてその対照と差は本物であろうか、というものである。政治意識や行動の多くの側面に違いをもたらす性別や年齢をそろえて分析してみれば、前稿でみた両者間のさまざまな差は消えてしまうのではないか。あるいは少なくとも、その差は大いに縮まるのではないか。これらのことを念頭において、まずは両者の基本的な属性を再分析することから始めよう。

CHART 1 居住地別

Local people and leaders are sampled at random from the same towns and villages all over Japan.

1.0 TYPE OF RESIDENCE

	TOWN	VILLAGE	
LOCAL PEOPLE (LP)	71.7	28.3	(805)
LOCAL LEADERS(LL)	72.9	27.1	(484)

(Q = -0.03)

- \*1 Local People and Local Leaders are referred to as LP and LL, respectively, hereafter.
- \*2 Numbers inside the bars show percentages; numbers in parentheses at the ends of the bars show the size of sample.

CHART 2 標地点

Sampling points are nearly equally distributed between northeast and southwest Japan.

2.0 SAMPLING POINT

	NORTH EAST JAPAN	SOUTH WEST JAPAN	
LP	47.8	52.2	(805)
LL	47.7	52.3	(484)

(Q = 0.00)

Ⅱ 基本的属性

前稿でみたように、地方の一般有権者と地方リーダーでは、男女の割合が大きく異なっている。一般有権者の場合には、男 417 人に対し、女 388 人で、ほぼ半々の比率といってよい。標本が無作為抽出である限り、これは当然である。ところが地方リーダーの場合には、リーダーという社会的地位、1966 年という時点、町村という地域特性、日本の政治文化などさまざまな理由により、圧倒的に男子が多く、男 478 人に対し、女はわずか 6 人である。参考までに Q をとってみれば、 $-0.97$  という極端に大きな値である。この様子は、CHART 3 で一目瞭然である。性別という要因は、とくに日本の政治文化において、学歴や政治的関心など、多くの要因に強い影響を及ぼす。それ故、一方のグループが半数近くの女性を含み、他方のグループはほとんど女性を含まないまま、これら両グループを対照比較するのは、やや大まかにすぎるといえよう。比較をより厳密にするためには、性別によるコントロールがまず第一の課題となる。

CHART 3 性別

Local leaders are overwhelmingly male.

3.0 SEX

	MALE	FEMALE	
LP	51.8	48.2	(805)
LL	98.8	1.2	(484)

( $Q = -0.97$ )

ところで女性リーダーは、リーダー総数 484 人のうちわずか 6 人であった。つまり当時の日本の町村で、上にあげた各種のリーダーの地位を女性が占めることは、極めて例外的であるということである。そのような例外的女性は、本稿でのような量的分析の対象としてより、むしろ質的、歴史



的分析の対象としてこそふさわしい。分析の都合上からいっても、サンプル数があまりに小さいのは、それらのサンプルをさらに年齢で分け、学歴で分けたりするうちに、cell が 0 になることも生じ、不都合である。これらの理由から、残念ではあるが以下の分析では、多くの場合女性は分析の対象から外されることになる。ストウファー（S. Stouffer）らによって 1954 年に行なわれた、アメリカ全土にわたるコミュニティ・リーダーと一般有権者とのすぐれた比較分析では、リーダー中の男女比はとくに問題にされていない。彼らの場合が、町村だけでなく市部からのリーダーをも含んでいたとはいえ、日米における政治文化の違いの一端を示唆して興味深い①。

つぎに、一般有権者とリーダーの年齢構成を確認しよう。年齢構成に関する前稿の詳しいグラフ 図Ⅱ-1 を、49 歳以下と 50 歳以上に 2 分して示

CHART 4 年齢

Local leaders are older than local people.

4.0 AGE

	20-49 YRS	50 YRS OR OLDER	
LP	61.5	38.5	(805)
LL	18.8	81.2	(483)

Q=0.75

4.1 AGE : MALE

	20-49 YRS	50 YRS OR OLDER	
LP	63.3	36.7	(417)
LL	18.4	81.6	(477)

Q=0.77

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

したのが、CHART 4.0 である。リーダーは圧倒的に 50 歳以上の年長者が多く、一般有権者では、逆に49歳以下の人々が多い。ここまでは、ほぼ前稿で見いだした事実と同じである。ここで、上のように2分した後に Q を計算してみると、 $Q=0.75$  という高い値になり、日本の地方社会において、社会的地位と年齢との関連の度合が非常に強いことが、簡便な量的な測度として得られる。さらに CHART 4.1 にみるように、男子だけにしてみても、リーダーと一般有権者双方とも、年齢構成の比率はほとんど変わらず、上の事実が確認される。Qの値も変化なしである。こうして地方リーダーは、そもそも圧倒的に男子が多いのであるが、この男子のなかでも、地方リーダーという社会的地位を占めているのは、断然年長者が多いという事実が、真に、測度をもって確認されたのである。確認された事実がたとえほぼ同じものであったとしても、このことの意義は決して小さくない。

ところで年齢の違いは、人々の基本的属性や政治的態度に、しばしば顕著な違いを生ぜしめる。したがって年齢をコントロールすることも、ここでの重要な課題となる。

地方リーダーと一般有権者に対する調査票の 最初の質問は、「あなたはこの地に何年位住んでいらっしゃいますか」というものである。回答を

CHART 5 居住年数

Among yourger generation, leaders tend to have lived in their present area a bit longer. Among older generation, local people tend to have lived in their present area a bit longer.

5.0 LENGTH OF RESIDENCE

	LES THN 10 YRS	10 PLUS NOT LIFE	WHOLE LIFE	
LP	16.4	37.1	46.5	(804)
LL	7.3	39.3	53.3	(463)

GAMMA=0.18

5.1 LENGTH OF RESIDENCE : MALE

	LES THN 10 YRS	10 PLUS NOT LIFE	WHOLE LIFE	
LP	13.2	31.3	55.5	(416)
LL	7.4	39.2	53.4	(457)

GAMMA=0.01

5.2 LENGTH OF RESIDENCE : MALE, 20-49 YRS

	LES THN 10 YRS	10 PLUS NOT LIFE	WHOLE LIFE	
LP	18.2	27.3	54.5	(264)
LL	3.5	39.5	57.0	(86)

GAMMA=0.15

5.3 LENGTH OF RESIDENCE : MALE, 50 YRS OR OLDER

	LES THN 10 YRS	10 PLUS NOT LIFE	WHOLE LIFE	
LP	4.6	38.2	57.2	(152)
LL	8.4	39.2	52.4	(370)

GAMMA=-0.11

「10年未満」, 「ずっとではないが10年以上」, 「すまれてからずっと」に3分して GAMMA を計算すると, CHART 5.0 にみるように, リーダーの方がやや居住年数は長いという傾向がみられる。(GAMMA=0.18) この事実は前稿でも確認した。しかし男子だけでみると(CHART 5.1), この傾向は消えてしまい, リーダーと一般有権者との間に, 居住年数の長さという点で差はみられなくなる。(GAMMA=0.01) 居住年数の比較的



### 地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

短い女子が、一般有権者のサンプル中から脱け落ちたので、男子どうしの比較では、とくに差がなくなってしまったのである②。この時点では、リーダー・一般有権者とも、他町村あるいは市部からお嫁さんをもらうから、とでも解釈されようか。しかしこれをさらに49歳以下と50歳以上に分けてみると、思いがけず興味深い結果が現われる。49歳以下の若年層では、地方リーダーの方がやや居住年数は長いという傾向があるのに対し、50歳以上の年長者ではこれとまったく逆の傾向、すなわち一般有権者の方がむしろその地に長く居住している、という傾向がみられるのである。（CHART 5.2 および 5.3）これをどう解釈するか。若年層でリーダーになるのは、その地に生まれ育った地元出身の人が多い。これに対して年長者では、他地域への移動が比較的少ない時代に育ち、その地を離れたことのない人々は、むしろ一般有権者に多いということであろうか。

図は省略するが、「15歳までの間、おもにどういうところで育ちましたか」という質問に対しても、男子の年長者の世代では、リーダーの方に、若いとき現在の居住地以外に住んだことがある、という人がやや多い。（ $Q = -0.14$ ）ともかく、前稿で単純に居住年数はリーダーの方がやや長いと考えていたものが、実は年齢によってまったく逆の傾向を内包していたわけで、このことが、条件 GAMMA をみることによって初めて明らかになったわけである。分析はヨリ正確に、そして精密になった。

地方リーダーと一般有権者の学歴については、調査票はつぎのように聞いている。「あなたが最後にお出になった学校はどこですか」。回答を新制中学校（旧制高等小学校を含む）以下と、新制高校（旧制中学校を含む）以上に2分してQをとると、CHART 6.0 にみるように  $Q = 0.65$  という値が得られ、リーダー・一般有権者という社会的地位と学歴との間には、相当に強い関連があることがわかる。しかし学歴は、どちらかというとなりの方が高いので、男だけで比較してみれば、リーダーと一般有権者の間に、学歴に関して差はなくなるのではないかとも思われる。ところが、CHART 6.1 にみるように、社会的地位と学歴との関連は、男だけの場

合でも  $Q=0.61$  で、あまり変わらないことがわかる。念のためサンプルの多い一般有権者の方で、性別と学歴との関連をみると、男の 65%、女の 72% が中卒以下に含まれ、結局  $Q=-0.15$  と、思いの外低い関連である③。こうして地方の一般有権者では、1966 年の時点で、男と女の学歴にさして大きな差がなかったが故に、男だけにしてみても、社会的地位と学歴との関連は、あまり小さくはならなかったのである。

さてこの関連を年齢別に 分けてみると、意外にも 若年層、年長者ともに、 $Q$  の値にして 10 ポイント以上も上昇した。(CHART 6.2 および 6.3)

CHART 6 学歴

Local leaders have higher educational back ground than local people, even when controled for sex. Actually, stronger correlator between, <sup>s</sup>status and education appears when controled for age, since age is functioning as a suppressor variable.

6.0 EDUCATION

	JR HIGH OR LESS	SR HIGH OR ABOVE	
LP	69.1	30.9	(800)
LL	32.2	67.8	(482)

$Q=0.65$

6.1 EDUCATION : MALE

	JR HIGH OR LESS	SR HIGH OR ABOVE	
LP	66.3	33.7	(416)
LL	32.1	67.9	(476)

$Q=0.61^{*1}$

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

6.2 EDUCATION : MALE, 20-49 YRS

	JR HIGH OR LESS	SR HIGH OR ABOVE	
LP	58.7	41.3	(264)
LL	19.3	80.7	(88)

$Q=0.71^{*2}$

5.3 EDUCATION : MALE, 50 YRS OR OLDER

	JR HIGH OR LESS	SR HIGH OR ABOVE	
LP	79.6	20.4	(152)
LL	35.1	64.9	(388)

$Q=0.76^{*3}$

\*1,2,3    \*2 and \*3 show higher values for Q than \*1.

社会的地位と学歴とは、49歳以下と50歳以上の両方で、実は“非常に強い  
関連”があることが判明したのである。これはどのように解釈したらよい  
であろうか。まずリーダー・一般有権者という社会的地位と学歴という要  
因の間には、相当に強い正の関連があった。zero-order  $Q=0.65$  である。  
すなわち、地位の高いリーダーの方が学歴も高い、という強い傾向があっ  
た。ところでリーダーの中には、年長者が断然多かった。そして年齢と学  
歴との関連を調べてみると、負の関連である。つまり年長者になるほど、  
リーダー・一般有権者とも、当時あるいはそれ以前の進学率を反映して、  
学歴は低くなる傾向がある④。 とすると、いま比較的学歴の低い年長者を  
多く含むリーダーと、比較的学歴の高い若年層を多く含む一般有権者をこ  
みにして、学歴という点で分けると、高学歴者の側には一般有権者が相対  
的に多く入ることになり、リーダー側は損をする。すなわち社会的地位と  
学歴との関連は、実際以上に弱く出てしまうのである。そこで、こんどは



年齢別に分けて考えると、若年層では、全体的に学歴が高くなっているとはいえ、リーダーの地位についている人にはやはり高学歴者が多いし、他方年長者だけの間では、全体的には学歴は低いとはいえ、やはりリーダーの学歴は高いのである。かくして社会的地位と学歴との真の関連は、年齢をコントロールしてこそ現われる。

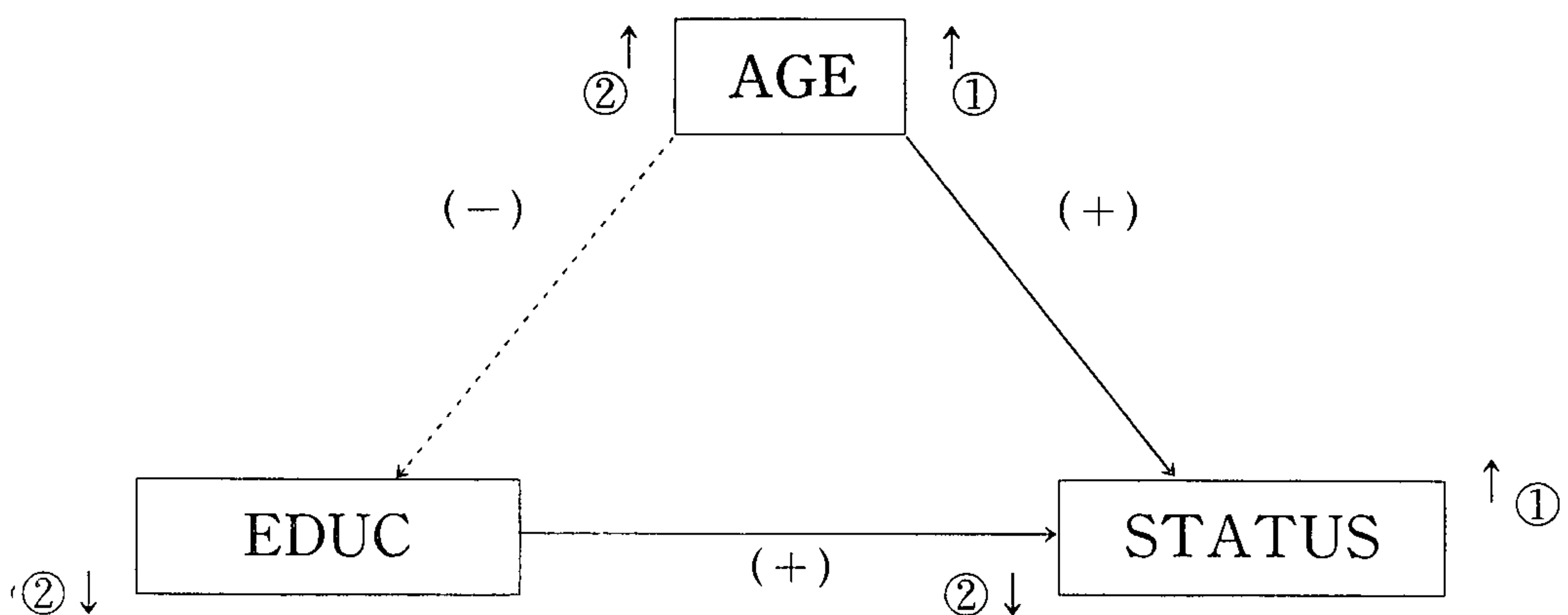


図 II-1

パス解析風にいえば、図II-1において、社会的地位（STATUS）と年齢（AGE）には正の関連がある。したがって年齢が上がれば地位も上がる（①）。学歴（EDUC）と地位とも正の関連である。すなわち学歴が上がれば地位も上がり、また逆に、学歴が下がれば地位も下がる。ところが年齢と学歴とは負の関連であるが故に、年齢が上がると学歴は下がる。するとそれにつれて地位も下がる。（②）つまり年齢が上がると、一方の直接的効果としては地位を上げるように働くのに対し、他方学歴を介してのその影響は、地位に対しては  $(-) \times (+) = (-)$  で負に働いてしまうのである。年齢の上昇に由来する地位に対する効果は、これら相殺し合う両方（①と②）の効果を含むことになるので、学歴と地位との関係は低く出てしまうのである。ここで年齢をコントロールすることにより、すなわち年齢別に分けて年齢の効果を除いてしまえば、本来の学歴と地位の間の非常に強い関連が現われてくるというわけである。年齢はここで、学歴と地位との本来の関係を弱めて出す、抑制変数（suppressor variable）として機

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

能している<sup>⑤</sup>。以上のような込みいった関係と、社会的地位と学歴との間にあった真の非常に強い関連の発見は、2次の条件 Q (second-order conditional Q) を調べることにより初めて可能となった<sup>⑥</sup>。

学歴とも関連の深い、年間の収入について点検してみよう。すでに前稿のグラフ 図 II-6 で、リーダーと一般有権者の間には、年間収入の面でかなりの差があることをみているが、ここでは収入を年60万円未満、100万円未満、100万円以上に3分して zero-order GAMMA を計算する<sup>⑦</sup>。GAMMA=0.59 であった。(CHART 7.0) しかし実は、年間収入の聞き方が、リーダーに対するものと一般有権者に対するものとで多少異なっている。リーダーに対しては、「あなた御自身の手取り収入は年に大体どのくらいですか」と尋ねているのに対し、一般有権者に対しては、「あなたの家族の世帯収入は年どのくらいですか」と尋ねている。回答者に主婦などが含まれている（一般有権者の中には140人位の主婦がいた。）ので、やむを得なかったにしても、この聞き方では、もしリーダーの配偶者が農業か小売店をやっており（町と村のリーダーの配偶者としては、これは充分ありうる話である）、リーダー自身の給料以外にも収入があったとしても、それは本人の収入のうちには加えられていない。とすれば、リーダーと一般有権者間の収入面における差は、実際にはもっと大きい可能性が強

CHART 7 年間収入

Local leaders earn more money than local people. The older, the greater is the difference.

7.0 ANNUAL INCOME

	LESS THN 600	LESS THN 1000	MORE THN 1000	
LP	58.9	28.4	12.7	(640) ※ 1
LL		22.6	41.5	35.7 (468)
GAMMA=0.59				

7.1 ANNUAL INCOME : MALE

	LESS THN 600		LESS THN 1000 MORE THN 1000		
LP	57.4		29.0	13.7 (366)	
LL		22.3	41.8	35.9	(462)

GAMMA=0.57

7.2 ANNUAL INCOME : MALE, 20-49 YRS

	LESS THN 600		LESS THN 1000 MORE THN 1000		
LP	53.6		32.6	13.7 (233)	
LL		26.4	40.2	33.3	(87)

GAMMA=0.48

7.3 ANNUAL INCOME : MALE, 50 YRS OR OLDER

	LESS THN 600		LESS THN 1000 MORE THN 1000		
LP	63.9		22.6	13.5 (133)	
LL		21.4	42.0	36.6	(374)

GAMMA=0.63

\*1 Unit is thousand yen.

い。この点には留意しておく必要がある。

一般有権者の方は、もともと世帯収入で回答しているので、女子を除いても GAMMA の値はほとんど変わらない。(CHART 7.1) 男だけでみても、リーダーと一般有権者では、収入面で相当に差があり、社会的地位と収入との関連は明らかである。この関連をさらに年齢でコントロールしてみると、CHART 7.2 と 7.3 が示すように、若年層と年長者の間で、



### 地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

GAMMA の値にして15ポイントほどの差があることがわかる。すなわち若年層では、年令で分けないときの CHART 7.1 の場合と比べて、GAMMA の値は小さくなり、0.48ほどの関連であるが、年長者の間では関連は逆に強まり、 $GAMMA=0.63$  という相当に大きい値を示している。これをどう解釈すべきだろうか。若年層では、リーダーといっても、まだ町村の“パワー・エリート”といえるほどの地位ではなく、しかも賃金は年功序列で上がってゆくので、一般有権者との間にあまり差が出ないのかもしれない。他方年長者では、リーダーの地位は確固たるものとなり、役職柄賃金は急上昇し、定年も延びるであろう。これに対して一般有権者の側では、農業や自営業の場合には、年をとったからといって収入が増えるとは限らず、俸給生活者の場合には、定年退職した人も出てくるであろう。こうしてともかく、社会的地位と年間収入との関連の分析は、性別と年齢をコントロールすることによってより精密になり、若年層と年長者層では関連の強さが異なっていることがわかったのである。

ところでリーダーと一般有権者では、何か宗教を信仰するという点で差があるであろうか。CHART 8 はこの点をみている。もとの質問は「あなたは何か宗教を信じていらっしゃいますか。〔信じているものに〕どの宗教ですか」というものであり、回答は厳密には順序尺度の変数とはならない。しかしこれを、どの宗教または宗派であれ、要するに宗教心があるかないかの方向性を示すとみなし、強引に GAMMA を計算すると（GAMMA をカッコの中に入れているのはこの理由による）、 $-0.31$  となり、リーダーの方がかなり信心深いという結果になる。（CHART 8.0）この傾向は、男だけでみてもほとんど変わらないが（CHART 8.1,  $GAMMA=-0.34$ ）、年令をコントロールすると興味深い結果が現われる。

まず若年層では、リーダーを一般有権者の双方で、どんな宗教も信じていないという人がかなり増える。しかしリーダーの方には、それでも仏教その他を信じる人が40%以上残り、結局  $GAMMA=-0.29$  で、なおリーダーの方が宗教心は強いという傾向である。（CHART 8.2）他方、年

CHART 8 宗教

Local leaders show greater tendency to have religious affiliation. But the factor age specifies this tendency and explains the similar religious attitudes among older generation.

8.0 RELIGIOUS AFFILIATION

		OTHER RELIGION		
		BUDDHISM	NONE	
LP	32.7	7.1	60.2	(789)
LL	49.6	6.5	44.0	(480)

(GAMMA = -0.31)

8.1 RELIGIOUS AFFILIATION : MALE

		OTHER RELIGION		
		BUDDHISM	NONE	
LP	32.3	5.6	62.1	(409)
LL	50.0	6.3	43.7	(474)

(GAMMA = -0.34)

8.2 RELIGIOUS AFFILIATION : MALE, 20-49 YRS

		OTHER RELIGION		
		BUDDHISM	NONE	
LP	22.3	5.8	71.9	(260)
LL	36.8	4.6	58.6	(87)

(GAMMA = -0.29)

8.3 RELIGIOUS AFFILIATION : MALE, 50 YRS OR OLDER

	OTHER RELIGION		
	BUDDHISM	NONE	
LP	49.7	5.4	(149)
LL	52.8	6.7	(386)

(GAMMA = -0.07)

長者の間では、逆に宗教を信じる人々が増え、とくに一般有権者との間に大きな差はなくなった。CHART 8.3 によれば、 $GAMMA = -0.07$  を示し、年長者の間では、社会的地位と宗教との関連はほとんどゼロである。前稿では、リーダーの方に何らかの宗教を信じている人が多いことをみたが、ここで年令をコントロールすることにより、その前稿での比較が単に最初のステップでしかなかったことがわかる。誰でも年をとれば神や仏を信ずるようになる。というのはよく知られた傾向であり、それ故に年長者の間では、リーダーも一般有権者も関係なくなった<sup>⑧</sup>。つまり、CHART 8.1 で  $GAMMA = -0.34$  を示した関連は、いわば見せかけの関連であり、それは年令によって大部分説明されるのである。ところで若年層の間では、さして強くはないものの、なお  $GAMMA = -0.29$  という関連が残っている。若いリーダーはなぜ宗教心が篤いのか。若くともリーダーという地位ゆえに、仏教のような orthodoxy を大切に奉じるのか。ハッキリとした理由は不明である。しかし重要なことは、第1に、社会的地位と宗教心との間にみられたかなりの関連が、分析によって精密になり (specify され)、その関連が若年層と年長者との間で異なっていたことが判明した点であり、第2に年長者で関連がほぼ消えてしまうのは、年齢によって説明されるだろうということがわかった点である。

宗教心をもつ人の割合が、いくらかリーダーの方に多いのであるから、その信仰を大切に思う人も、リーダーに多いであろうことは当然予測され



る。質問は、何か宗教を信じると回答した人のみに対して、「あなたにとって、宗教を信じることはどのくらい大切ですか」と聞いたものである。CHART 9 がその分析結果であり、非常に大切と回答した人は、予想通り

CHART 9 宗教の大切さ

Among those who have religious affiliation, leaders tend more to think that religion is very important for them. Age specified the big difference in the tendency between younger and older generation.

9.0 IMPORTANCE OF RELIGION

	SOME WHAT IMPORTANT	VERY IMPORTANT	
LP	81.6	18.4	(294)
LL	52.3	47.7	(260)

Q=0.60

9.1 IMPORTANCE OF RELIGION : MALE

	SOME WHAT IMPORTANT	VERY IMPORTANT	
LP	78.6	21.4	(145)
LL	52.7	47.3	(258)

Q=0.53

9.2 IMPORTANCE OF RELIGION : MALE, 20—49 YRS.

	SOME WHAT IMPORTANT	VERY IMPORTANT	
LP	69.6	30.4	(69)
LL	64.7	35.3	(34)

Q=0.11

9.3 IMPORTANCE OF RELIGION : MALE, 50 YRS OR OLDER

	SOME WHAT IMPORTANT	VERY IMPORTANT	
LP	86.8	13.2	(76)
LL	50.9	49.1	(224)

Q=0.73

リーダーの方に断然多く、 $Q=0.60$  である。(CHART 9.0) これを男子だけにしてみると、関連の度合は7ポイント減じて、 $Q=0.53$  となった。(CHART 9.1) とくに大きな変化というわけではないが、念のため一般有権者のみで性別と宗教の大切さとの関連を調べてみると  $Q=-0.14$  で、どちらかというとなりの方に宗教を非常に大切と感じる人が多い。⑨ 信じる宗教をあげる者の絶対数は女の方にわずかに多いが、女は割合にさめているわけで、そのクールな女を除いて男だけにしたので、 $Q$  の値は CHART 9.1 でわずかに減じたのである。

さらに年齢でコントロールしてみると、若年層と年長者の間で、社会的地位と宗教の大切さとの関連は、CHART 9.2 と 9.3 が示すように、見事に精密化される。若年層の間ではリーダー・一般有権者とも、宗教はせいぜいいくらか大切であると思う人達が文句なく多数であり、社会的地位と宗教の大切さとの関連は結局  $Q=0.11$  とごく弱いものである。これは、宗教を非常に大切と思う若い一般有権者の割合が意外に増えていることからきている。ところが年長者の間では、宗教を非常に大切と思うリーダーは約50%いるのに対し、一般有権者のそれはわずかに13%で、圧倒的に多数の87%は、宗教はいくらか大切であると思っているにすぎない。CHART 9.3 にみられる  $Q=0.73$  は、年長者層における、社会的地位と宗教の大切さとの間の非常に強い関連を示している。宗教を非常に大切と考えるのはリーダーの方に多い、という相当に強い傾向( $Q=0.53$ ) は、若年層と年長者の間で、大きく内実が異なっていたわけである。年配にな

CHART 10 年齢と宗教の大切さ（地方リーダー）

10.1 AGE AND IMPORTANCE OF RELIGION (LL)

	SOME WHAT IMPORTANT	VERY IMPORTANT	
20-49 YEARS	62.9	37.1	(35)
50-PLUS YEARS	50.7	49.3	(225)

Q = 0.24

CHART 11 年齢と宗教の大切さ（一般有権者）

11.1 AGE AND IMPORTANCE OF RELIGION (LP)

	SOME WHAT IMPORTANT	VERY IMPORTANT	
20-49 YEARS	75.3	24.7	(150)
50-PLUS YEARS	87.6	12.4	(186)

Q = -0.40

ればなるほどリーダーと一般有権者の間で、宗教を非常に大切と考える人の割合の差が大きくなっている。

これはどうしてであろうか。解釈上の理由はいま明らかではないが、ともかく、リーダーと一般有権者で、別々にデータをチェックしてみよう。まずリーダーをみると、CHART 10 が示すように、年長者の方に宗教を非常に大切と考える人の方が多く、Q=0.24 である。これは、数値の大きさはともかく、まずは予想通りである。他方一般有権者の方では、CHART 11 が示すように、これは意外にも、若年層に宗教を非常に大切と考える人々の割合が相対的に多く、Q=-0.40 とかなり強い逆の関連である。こうしてデータの上での理由はとけた。一般有権者においては、相対的に年長者に宗教をいくらか軽くみる人々が多いために、年長者どうしで比べると、宗教を非常に大切と考える人の多いリーダーとの間に非常に強い差が出て



## 地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

しまったのである。結論は、CHART 9.1 の  $Q=0.53$  にみた、リーダーの方が宗教を非常に大切と思う傾向が相当に強いという命題は、CHART 9.2 と CHART 9.3 が示唆する2つの命題に分解されねばならない、ということである。実際、CHART 9.1 の命題は、若年層での弱い関連と、年長者の間での非常に強い関連との、何らかの意味での合成であり、 $Q=0.53$ は、 $Q=0.11$  と  $Q=0.73$  の何らかの意味での平均なのである。ともかく、リーダー・一般有権者という社会的地位と、宗教をどの程度大切に思うかという2つの要因間の関連は、性別と年齢をコントロールすることにより前稿に比べて格段に精密になった。（以下続稿）

### 注

#### I 序

- ① 参照，山本昇『らくだい村長』1961。
- ② 日本および諸外国における地方リーダーの研究，とくに一般有権者との比較を含んだ研究の紹介，検討は，続稿で行ないたい。ここでは，データ分析の結果を主として報告する。
- ③ 大石紘一郎「地方リーダーの意識と行動——一般有権者との比較分析——」、『東京都立大学法学会雑誌』1978，第19巻第1号所収，89-128頁参照。
- ④ 日本チームにより「市民意識調査」と略称されたこの全国調査は，“Cross-National Program for Political and Social Change”を正式の名称とする国際的な共同研究計画であった。本稿が分析の対象としている，町村のリーダーと一般有権者のデーター・セットは，1966年10月に実施された，日本における調査の結果の一部である。国際的な比較を意図したこのプロジェクトが実行に移されるまでの経緯，調査の詳しい内容，調査方法の説明，結果の処理方法などについて，詳しくは池内一編『市民意識の研究』，1974，の序章を参照。
- ⑤ 大石，前掲，124-127頁。
- ⑥ cf. Goodman, Leo, and William Kruskal, “Measures of Associations for Cross Classifications,” *Journal of the American Statistical Association*, 1954, Vol. 49, pp. 732-764; Davis, James, *Elementary Survey Analysis*, 1971, Chap 2, 3; Blalock, Hubert, *Social Statistics*, 2nd. ed., 1972, Chap 15&18。

安田三郎・海野道郎『社会統計学』第2版，1977，1・3，および3・1。  
Yule's  $Q$  ないし GAMMA，さらに今後多用する条件  $Q$  (conditional  $Q$ ) や条件 GAMMA (conditional GAMMA) などの実際の計算法，およびそれら



の解釈のし方については，補 1 の部分を参照。名義尺度，順序尺度，間隔尺度など，測度のレベルについての議論はたとえば，Davis, J., op. cit., Chap. 1, 大山正・武藤真介・柳井晴夫『行動科学のための統計学』，1980，第 1 章など参照。

- ⑦ Davis, op. cit., p. 49。
- ⑧ 前稿では，町村の一般有権者のデータセットの中に，地方リーダーが選ばれていない地点——町・村ではあるが——からの一般有権者も若干含まれていた  
ので，合計 999 人であった。しかし今回，分析の厳密さを期すため，リーダー  
のサンプルがある地点からのみの一般有権者に限定した結果，サンプル数が少  
しばかり小さくなった。

## Ⅱ 基本的属性

- ① Stouffer, Samuel, *Communism, Conformity and Civil Liberties*, 1955。  
1983年，鳥取県の各級首長（4 市35町村），県会議員市会議員，町村会議員らに  
アンケート調査した結果は，「…回答を寄せた398名の政治家のうち，女は町議  
でわずか 4 名であり，政治家の大多数は男性であった」という。ある 1 つの県  
の地方政治家のみ，そして町村を越えるレベルの政治家をも含む調査ではある  
が，17年を経てなおこの「男性優位」には驚かされる。参照，春日雅司「地方  
政治家の社会的背景」，社会学研究会『ソシオロジ』第30巻 1 号，1985，所収。  
なおこの号は「鳥取県の地方政治家」を小特集しており，他にも興味深い論稿  
を含んでいる。
- ② ちなみに地方の一般有権者だけのデータを示せば，CHART N 1.0 にみる  
ように，女子の方が居住年数は短かいという傾向がある。

CHART N 1 性別と居住年数（一般有権者）

N 1.0 SEX AND LENGTH OF RESIDENCE (LP)

	LES THN 10 YRS	10 PLUS NOT LIFE	WHOLE LIFE	
MALE	13.5	29.9	56.6	(511)
FEMALE	20.7	42.9	36.3	(487)

GAMMA = -0.32

- ③ 一般有権者における性別と学歴との関連は，CHART N 2.0 が示すように，  
意外と強くない。男女とも大多数は中卒（旧高等小）以下である。

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

CHART N 2 性別と学歴（一般有権者）

N 2.0 SEX AND EDUCATION (LP)

	JR HIGH OR LESS	SR HIGH OR ABOVE	
MALE	65.1	34.9	(510)
FEMALE	71.6	28.4	(482)

$Q = -0.15$

④ 年齢と学歴との関連をまず一般有権者でみると，CHART N 3.1 が示すように，年長者の方が学歴は低いというかなり強い傾向があり， $Q = -0.47$ である。他方同じ関連を地方リーダーについてみると，CHART N 4.1 で明らかなように，大多数は高学歴に分類されるものゝ，やはり年長者の方が学歴は低く， $Q = -0.39$ である。こうしてリーダーと一般有権者の双方で，年齢と学歴との間には，かなり強い負の関連が見いだせる。

上級学校への進学率は，当時毎年上がっているが，矢野恒太記念会編／矢野

CHART N3 年齢と学歴（一般有権者：男）

N 3.1 AGE AND EDUCATION (LP) : MALE

	JR HIGH OR LESS	SR HIGH OR ABOVE	
20-49 YEARS	58.7	41.3	(264)
50-PLUS YEARS	79.6	20.4	(152)

$Q = -0.47$

CHART N4 年齢と学歴（地方リーダー：男）

N 4.1 AGE AND EDUCATION (LL) : MALE

	JR HIGH OR LESS	SR HIGH OR ABOVE	
20-49 YEARS	19.3	80.7	(88)
50-PLUS YEARS	35.1	64.9	(388)

$Q = -0.39$

一郎監修『数字でみる日本の100年』, 1981 によれば, 高等学校への進学率は1965 年頃で約 70% 位である。これは全国平均なので, 町・村部はより低い。

- ⑤ cf. Davis, op. cit., chap 4.
- ⑥ なお前稿では, 本人が最初についた職業をリーダーと一般有権者で対照比較し (図Ⅱ-4), さらに15才位までの父の職業についても, 図Ⅱ-5 で比較対照している。これらについては, 性別と年齢をコントロールしてもさほど大きな変化は見られないし, カテゴリーが ordinal でなく GAMMA 等も計算できないので, 本稿では省略する。詳しくは前稿を参照して欲しい。
- ⑦ この年間収入額は, 現在から見ればずい分低いと思われるかもしれない。しかしこの調査が, もともと現金収入の比較的少ない町と村で, しかも経済の高度成長の効果が町や村に波及する以前に行なわれていることを考えれば, 納得がいくであろう。矢野恒太記念会編／矢野一郎監修 (1981) によれば, 1965 年の1戸あたり農家所得は 760, 800 円であり, 参考までに同年の都市勤労者世帯の平均年収は 821, 028 円である。
- ⑧ 宗教を信じる者の比率が, 年長者になるほど高くなるという点に関して, 古くはたとえば, 統計数理研究所国民性調査委員会編『日本人の国民性』1961, 第Ⅳ章, § 3, また比較的最近のものでは NHK 放送世論調査所編『図説戦後世論史』1975, 第1部, Ⅷ; 同『現代日本人の意識構造』1979, Ⅳなど参照。
- ⑨ 一般有権者の男と女では, 何らかの宗教を信じる者の絶対数は女の方が多いものゝ, 彼女らは意外にさめている。(CHART N 4)

CHART N 4 性別と宗教の大切さ（一般有権者）

N 4.0 SEX AND IMPORTANCE OF RELIGION (LP)

	SOMEWHAT IMPORTANT	VERY IMPORTANT	
MALE	80.1	19.9	(166)
FEMALE	84.1	15.9	(170)

Q = -0.14

(追記) データ分析の作業には, 東京大学大型計算機センターを利用。計算費用等は市民意識研究会 (京極純一氏代表) からの補助による。作業の遅延をお詫びしつつ, 謝意を表したい。

補1 Yule's Q, 条件 Q, Q の信頼区間および GAMMA

まず、Yule's Q の計算法を説明しよう。X と Y の2変数において、両者ともカテゴリー数を2とすると、これらをクロスさせて2×2のクロス集計表を得る。各 cell に落ちる頻度数を表・補1のように  $a, b, c, d$  とすれば、Qは、

表・補1 XとYの2変数クロス集計表

Y (所得) X (学歴)		—	+	計
		1	2	
—	1	$a$	$b$	$a + b$
+	2	$c$	$d$	$c + d$
計		$a + c$	$b + d$	$N$

$a, b, c, d$  は各 cell の頻度数； $N$  はサンプル総数

$$Q_{XY} = \frac{ad - bc}{ad + bc}$$

(以下表補7まで、クロス集計表内の度数については、大山・武藤・柳井、(1980) 第2章から借用)

$$\text{Yule's } Q = \frac{ad - bc}{ad + bc} \qquad \dots\dots \text{式・補(1)}$$

という計算式で求められる。 $ad$  および  $bc$  は、それぞれクロス積 (cross products) と呼ばれる。つまり Q は、クロス積の差をクロス積の和で割ったものである。

この式の意味を理解するために、もう少し具体的に考えてみることにする。いま仮に X を学歴の変数とし、Y をその人が得る年間所得の変数とする。カテゴリー1はそれぞれ低学歴と低所得、カテゴリー2はそれぞれ高学歴と高所得を表わすものとする。もし



$$a:b=c:d \quad \text{または} \quad \frac{a}{b}=\frac{c}{d} \quad \cdots\cdots\text{式・補(2)}$$

すなわち学歴の低い階層の中での、低所得層と高所得層の割合が、学歴の高い階層の中でのそれとまったく等しいとすれば、学歴と所得との間にはとくに関連はないことが推測される。学歴が低い層にも高い層にも、低所得者と高所得者がまったく同じ割合でいるわけであるから、所得の高低は学歴の高低から何の影響も受けていないことになる。補（2）式は  $ad=bc$  と書き直すこともでき、それは補（1）式の分子を 0 とするので、結局、2 変数間に何らの関連もみられないときは、Q の値は 0 である。このとき、X と Y は独立であるという。

こんどは  $ad \neq bc$  とくには  $ad > bc$  とする。サンプル総数  $N$  の中から、2 人 1 組のペアを選び出すとしよう。その際、1 人を選び出した後、その 1 人は再び元のサンプルの中に返すものとする。 $X_1Y_1$  のカテゴリー、すなわち低学歴で低所得の人を選び出す確率は  $a/N$ 、また  $X_2Y_2$  のカテゴリー、すなわち高学歴で高所得の人を選び出す確率は  $d/N$  である。2 人を選び出すのであるが、低学歴で低所得、高学歴で高所得という、“常識に合った (consistent)” 組合せの 2 人を選び出す確率は  $\frac{a}{N} \times \frac{d}{N}$  である。 $X_1Y_1$  と  $X_2Y_2$  のどちらのタイプを先に選び出してもかまわないので、結局“常識に合った” 2 人の組合せを選び出す確率は

$$\left(\frac{a}{N} \times \frac{d}{N}\right) \times 2 = \frac{2ad}{N^2} \quad \cdots\cdots\text{式・補(3)}$$

ということになる。

他方、 $X_1Y_2$  のカテゴリー、すなわち低学歴でありながら高所得の人々を選び出す確率は  $b/N$ 、また  $X_2Y_1$  のカテゴリー、すなわち高学歴であるにもかかわらず低所得の人々を選び出す確率は  $c/N$  である。これらの、やや“常識に反した (inconsistent)” 2 人の組合せを選び出す確率は、上と同様の考え方により

$$\left(\frac{b}{N} \times \frac{c}{N}\right) \times 2 = \frac{2bc}{N^2} \quad \cdots\cdots\text{式・補(4)}$$

となる。

その他の組合せとして、2人ともがまったく同一の cell から抽出される場合（たとえば2人とも  $a$  の cell から抽出された場合の  $a^2$ ）、学歴が同じでも所得が異なる2人組（たとえば  $ab$ ）の場合、所得が同じでも学歴が異なる2人組（たとえば  $bd$ ）の場合があり、それぞれの確率は  $(a^2 + b^2 + c^2 + d^2)/N^2$  と  $2(ab + cd + ac + bd)/N^2$  である。以上のすべてを合わせて確率は1となる。しかしいまは、クロス積以外の組合せについては、関心をもたないことにしよう。

consistent と inconstant という2種類の組合せの差を、クロスする組合せ全体の中でみることにより規準化すると、それが  $Q$  の値である。

$$\frac{\frac{2ad}{N^2} - \frac{2bc}{N^2}}{\frac{2ad}{N^2} + \frac{2bc}{N^2}} = \frac{ad - bc}{ad + bc} = Q_{XY} \quad \dots\dots\text{式・補(5)}$$

ここで  $Q_{XY}$  は、 $X$  と  $Y$  の2変数に関する  $Q$  の値である。すなわち  $Q$  は、言葉を使って表現すれば、次のように翻訳できる。

$$Q_{XY} = \frac{(\text{consistent な組合せ}) - (\text{inconsistent な組合せ})}{X \text{ と } Y \text{ のクロスする組合せ全体}} \quad \dots\dots\text{式・補(6)}$$

ここで先に仮定したように  $ad > bc$ 、すなわち consistent な組合せの方が inconsistent な組合せより大きければ、 $Q$  は正の値をとり、本文の表 I-1 に照らして、学歴とその人の年間所得との間には正の関連がある、と推測できる。つまりたとえば、低学歴の人は年間所得も低くなる傾向があり、他方高学歴の人は高い年間所得を得る傾向がある、と表現することになる。確率でいえば、inconsistent な組合せ（この場合は  $bc$ ）を得る確率よりも、consistent な組合せ（ $ad$ ）を得る確率の方が高いということである。

$Q$  は規準化されているので、異なるサンプルから作成する同様の変数の  $2 \times 2$  のクロス集計表において、 $Q$  の値は相互に比較できる。仮想的な具体例から  $Q$  の値を実際に計算し、その解釈を検討してみよう。いま、学歴の変数と、好みの朝食のメニューという変数をクロスさせて、表・補2を得

表・補2 学歴と好みの朝食のメニューとの関連

学 歴 \ 朝 食	パ ン	御 飯	計
低	23 (0.52)	21 (0.48)	44 (1.00)
高	29 (0.52)	27 (0.48)	56 (1.00)
計	52 (0.52)	48 (0.48)	100 (人) (1.00)

（ ）内はヨコに計算したパーセントの値。これは小数第3位で四捨五入している。以下同様。

$$Q = \frac{23 \times 27 - 21 \times 29}{23 \times 27 + 21 \times 29} = \frac{12}{1230} \doteq 0.01$$

（小数第3位を四捨五入，以下同様）

たとする。各 cell 内の数値は，その cell 内に落ちた頻度数であり，（ ）内の数値は，ヨコに計算したパーセントである。一見してわかるように，低学歴層の中でのパン党と御飯党の割合は，高学歴層の中でのそれとまったく同じである。つまり，朝食にパンを好むか御飯を好むかということは，学歴の高い低いとは関連がなさそうである。ちなみに Q を計算してみると， $Q=0.0097$  であり，ほぼ 0 とみなしてよい。こうして本文の表 I-1 に照らして，学歴と好みの朝食のメニューとは，ほとんど関連はないと表現することになる。

こんどは，学歴と年間所得との関連を調べてみよう。表・補3が，その仮想的なクロス集計表である。ここでは，便宜のために示してあるパーセントの数値より，一見して低学歴層の中には低所得の人々が多く含まれているし，これと対照的に，高学歴層の中には高所得の人々が多いことがみてとれる。Qを計算すると， $Q=0.51$  であり，本文の表 I-1 に照らして学歴と年間所得との間には相当に強い関連があり，学歴が高くなればなるほど，年間所得も多くなると推論できる。もちろんその逆に，学歴が低い場合には，年間所得も低くなる可能性が強いというふうに表現してもよい。



表・補3 学歴と年間所得との関連

学 歴 \ 所 得			
	低	高	計
低	38 (0.70)	16 (0.30)	54 (1.00)
高	26 (0.57)	26 (0.57)	46 (1.00)
計	58 (0.58)	42 (0.42)	100 (1.00)

$$Q = \frac{38 \times 26 - 16 \times 20}{38 \times 26 + 16 \times 20} = 0.51$$

こうして Q は、2×2 のクロス集計表における変数間の関連の度合を示す、さらにはときに2変数間の因果関係をも推論させる、非常に簡便な指標であることがわかる。

仮想のデータにおいて学歴と年間所得との間に相当強い関連があることがわかったが、さてこれら2つの変数に対しては、性別が微妙に影響を与えていそうである。その影響がどのようなものであるかを分析するためには、学歴と所得の2変数クロス集計に対して、さらに性別という変数をは

表・補4 学歴と所得との関連が性別によって説明される場合（表・補3参照）

學歷	所得	性別						計
		女 (F)			男 (M)			
	低	高	計	低	高	計		
低		33 (0.80)	8 (0.20)	41 (1.00)	5 (0.38)	8 (0.62)	13 (1.00)	54
高		4 (0.80)	1 (0.20)	5 (1.00)	16 (0.39)	25 (0.61)	41 (1.00)	46
計		37 (0.80)	9 (0.20)	46 (1.00)	21 (0.39)	33 (0.61)	54 (1.00)	100

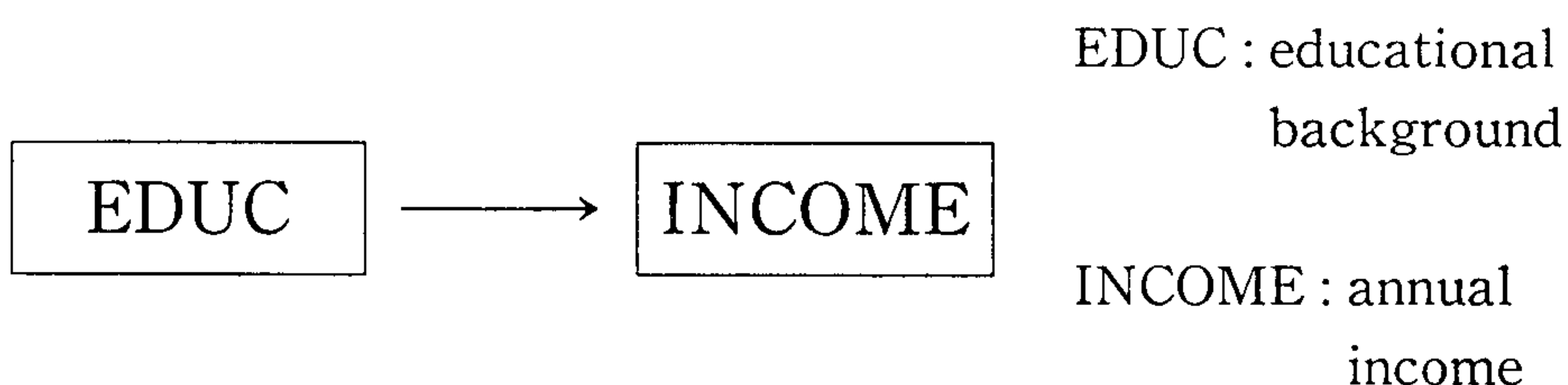
$$Q_F = \frac{33 \times 1 - 8 \times 4}{32 \times 1 + 8 \times 4} = 0.02$$

$$Q_M = \frac{5 \times 25 - 8 \times 16}{5 \times 25 + 8 \times 16} = -0.01$$



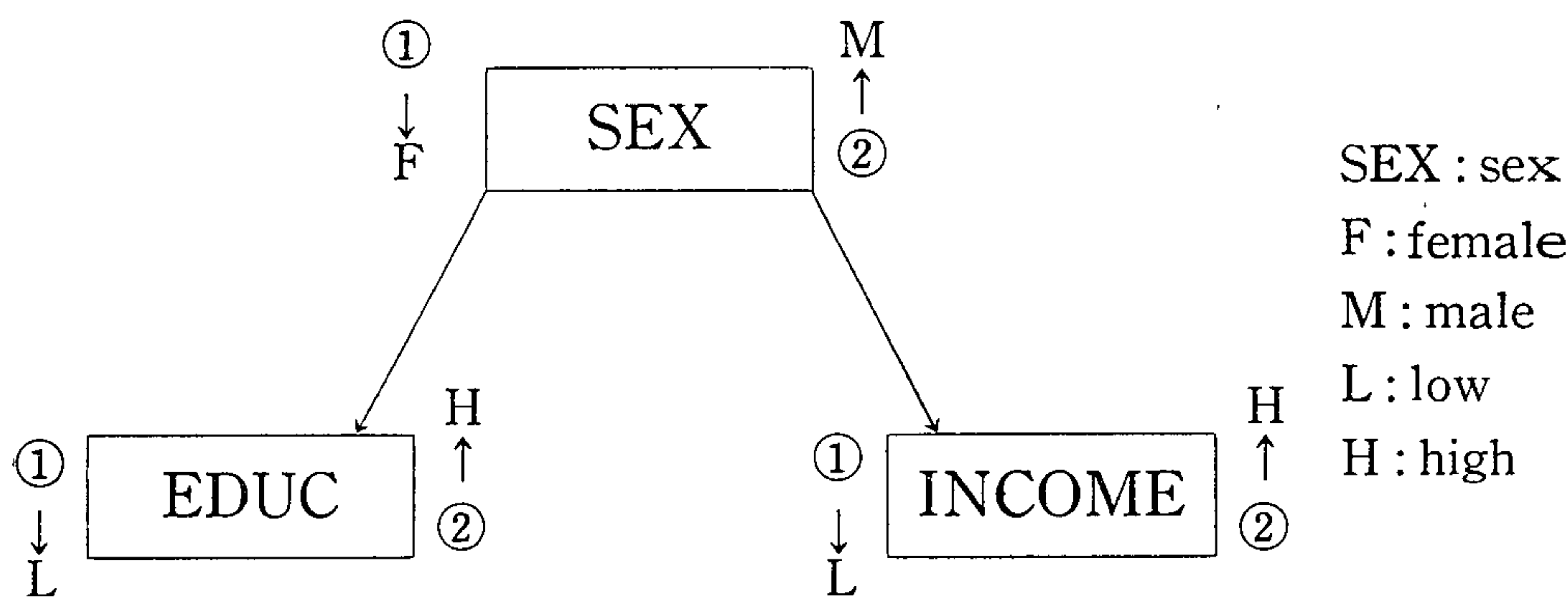
け合わせ、男女別に分けた3重クロス集計表を作ってみることである。表・補4がその結果であり、この場合クロス集計表は男女別に2つできるので、Qの値も2つ得られることになる。（表・補4は、表・補3を男女別に分けて得られたものなので、合計の欄に注目すれば、表・補4から表・補3は簡単に再構成できる。）

男女別に分けて得られたQの値は、両方ともごく小さな値であり、ほぼ0とみなしてよい。つまり表・補3において0.51あったQの値が、男女別に分けたとたんに消滅してしまったのである。これはどういうことを意味するか。表・補4をよくみると、女の方では、学歴の低い高いにかかわらず、所得の低い人と高い人の割合は約8対2で、あきらかに所得の低い人の方が多い。これに対して男の方では、学歴の低い高いにかかわらず、所得の高い人の方が多い。つまり男と女の両方で、学歴の高低と所得の高低は関係なく、要するに女であれば所得は低くなる確率が大きく、男であれば所得は高くなる確率が大きいのである。所得の高低は、学歴ではなく、性別によって決まるのである。ほとんど無視しうるほどの2つのQの値が、このことを端的に示している。学歴と所得との間にあった関連は、実はみかけ上の相関（疑似相関 spurious correlation）であり、それは性別の影響によって完全に「説明される」（explanation）のである。図で描けば、はじめ図・補1のように、学歴によって所得が決まる、すなわち学歴と所得との間には、正の関連があると考えられていたものが、第3の変数（test variable）である性別を導入してみた結果、図・補2のように両者間の関連（実線の矢印）は消え、性別からの影響のみが残ることになる。変数の横



図・補1

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）



図・補 2

に書きいれてある小さな矢印が示すように、性別が女になれば学歴は低くなり、また同時に所得も低い方へ動く(①)。逆に性別が男になれば、学歴は高くなり、また同時に所得も高い方へ動く(②)。こうして学歴と所得は、双方が性別の影響をうけて連動し、それらはテスト変数として性別を意識的に導入するまでは、あたかも相関関係があるかのように見られたのである。

ところで実際のデータにおいては、表・補 4 でのようにテスト変数を導

表・補 5 学歴と所得との関連が性別によって部分的に説明される場合（表・補 3 参照）

性別 所得 学歴	女			男			計
	低	高	計	低	高	計	
低	32 (0.80)	8 (0.20)	40 (1.00)	6 (0.43)	8 (0.57)	14 (1.00)	54
高	8 (0.73)	3 (0.27)	11 (1.00)	12 (0.34)	23 (0.66)	35 (1.00)	46
計	40 (0.78)	11 (1.00)	51 (1.00)	18 (0.37)	31 (0.63)	49 (1.00)	100

$$Q_F = \frac{32 \times 3 - 8 \times 8}{32 \times 3 + 8 \times 8} = 0.20$$

$$Q_M = \frac{6 \times 23 - 8 \times 12}{6 \times 23 + 8 \times 12} = 0.18$$

入したからといって、はじめのXとYの関連、すなわち学歴と所得との関連が完全に消えてしまうことはまずない。通常は、関連の度合が若干小さくなったとしても、なおQの値は残り、XとYの関係を実証するのである。表・補5がこの場合であり、Qの値は男女とも約0.2ほど残っており、表・補3でのように、0.51という強い関連ではないが、性別をコントロールしても、学歴と所得との間にはなお若干の関連を認めることになる。つまり学歴と所得との関連を、性別のテスト変数が部分的に説明したのである。表・補4や表・補5で計算した2つのQを、条件Q（conditional Q）と呼ぶことにする。（なお表・補5も、表・補3を男女別に別けて得られたものなので、それから表・補3を作成するのは容易である。）

表・補4や表・補5では、2つの条件Qの値はほぼ等しかった。しかし表・補5において条件Qの値はごくわずかに違っているし、表・補4においては、符号さえも異なっている。実際、学歴と所得との関連が、女と男で正負まったく逆になることもあり得ないことではない。極端な例を示そう。表・補2の朝食の変数を学歴に代えて、はじめに得られた学歴と所得との関連がQ=0.01、つまりほぼ0であったと仮定しよう。表・補2に

表・補6 学歴と所得との関連が性別によって現われてくる場合（表・補2参照）

性別 所得 学歴	男			女			計
	低	高	計	低	高	計	
低	17 (0.57)	13 (0.43)	30 (1.00)	6 (0.43)	8 (0.57)	14 (1.00)	44
高	4 (0.15)	22 (0.85)	26 (1.00)	25 (0.83)	5 (0.17)	30 (1.00)	56
計	21 (0.38)	35 (0.63)	56 (1.00)	31 (0.70)	13 (0.30)	44 (1.00)	100

$$Q_M = \frac{17 \times 22 - 13 \times 4}{17 \times 22 + 13 \times 4} = 0.76$$

$$Q_F = \frac{6 \times 5 - 8 \times 25}{6 \times 5 + 8 \times 25} = -0.74$$

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

テスト変数の性別を導入して、男女別に分けた表・補6が得られたとする。（したがって表・補6からは、表・補2が再構成される。）説明の便宜上、ここでは性別の男のカテゴリーは左にくるものとする。朝食を所得に代えた表・補2からは、学歴と所得との間にまったく関連がみられなかったにもかかわらず、男女別に分けた表・補6では、男女別々に、正負まったく逆の非常に強い関連が現われている。男と女で、学歴と所得との関連の方向が正反対であったが故に、男女こみのデータでみた場合には、その関連が相殺されて表面に出てこなかったのである。男の場合には、学歴と所得との間には  $Q=0.76$  という非常に強い正の相関があり、学歴が高ければ高いほど、所得も高くなる傾向がある。ところが女の場合には学歴の低い方が所得は高く、学歴の高い人は所得は低いという傾向があり、しかもその度合は  $Q=-0.74$  という非常に強いものである。これにどういう解釈をつけるにせよ、ともかくテスト変数の性別を導入した結果、学歴と所得との関連が男女でまったく正反対であることが判明したのであり、この場合を精密化（specification）という。

テスト変数を導入してクロス集計表を分割してみても、 $Q$ の値がまった

表・補7 学歴と所得との関係が性別と無関係な場合  
（表・補3参照）

性別 所得 学歴	女			男			計
	低	高	計	低	高	計	
低	19 (0.70)	8 (0.30)	27 (1.00)	19 (0.70)	8 (0.30)	27 (1.00)	54
高	10 (0.43)	13 (0.57)	23 (1.00)	10 (0.43)	13 (0.57)	23 (1.00)	46
計	29 (0.59)	21 (0.42)	50 (1.00)	29 (0.58)	21 (0.42)	50 (1.00)	100

$Q_F = \frac{19 \times 13 - 8 \times 10}{19 \times 13 + 8 \times 10} \div 0.51$

$Q_M = \frac{19 \times 13 - 8 \times 10}{19 \times 13 - 8 \times 10} \div 0.51$



く変化しないこともある。表・補7の場合がそれで、男女ごとのQの値はいずれも0.51であり、もとの表・補3の $Q=0.51$ と変わらない。学歴と所得の間の関連は、性別に無関係であり、性別は両者の関連に何らの影響も及ぼしていない。男の場合も女の場合も、やはり、学歴が高ければ所得も高くなる確率が大いである。これは、もとの解釈の確認である。

以上、テスト変数を導入して得られる条件Qを検討することにより、クロス集計分析がより興味深くまた精細になることをみた。ところで、調査のサンプリングが原理的に無作為抽出である限り、そこで得られた無作為標本は、いわば偶然に得られた多くの標本のうちの1つにすぎず、まったく同等の確率で、他の組合せの標本が得られた可能性もある。とすれば、1つの標本からの変数を組み合わせてクロス集計表を作り、Qを計算したとしても、このQの値が、別の同様のサイズの標本から同様の手続きを経て得られるQの値と、つねに一致するとは限らない。否むしろ多少とも異なるQの値が得られるのが普通であり、したがって多くのQの比較を試みる際には、Qの信頼区間を考慮にいれておく必要がある。詳しい議論は省略して、Qの95%の信頼区間を与える式だけを掲げると：

$$Q \text{ の } 95\% \text{ 信頼区間} = Q_{XY} \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{(1.00 - Q^2)^2 \left( \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} \right)}{4}} \quad \dots\dots \text{式・補(7)}$$

（但し、 $a, b, c, d$  は表・補1におけるように、各 cell の度数である）。

である\*。

\* Davis (1971), p. 57, Also cf. Goodman, (1965), p. 291.

式・補(7)を、たとえば本文のCHART 6.1のクロス集計表から得られるQの値に適用してみよう。CHART 6.1図は、一般有権者(LP)と地方リーダー(LL)という2つのカテゴリーをもつ社会的地位(STATUS)という変数と、学歴の変数のクロス集計を、さらにテスト変数である性別でコントロールして、男の場合だけをみたものである。実際の度数を再現すると表・補8のようになり、条件Qは0.61である。この95%信頼区

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

表・補 8 地位と学歴との関連：男の場合  
(本文 CHART 6.1 参照)

学 歴 地 位			
	中卒以下	高校以上	計
一 舞 有 権 者	276	140	416
地 方 リ ー ダ ー	153	323	476
計	429	463	892

$$Q = \frac{276 \times 323 - 140 \times 153}{276 \times 323 + 140 \times 153} = 0.61$$

間は、上限 0.70 下限 0.53 となる。Q の変異の幅を感覚的につかんだところで、式・補（7）の根号内の分子をよくみると、度数  $a, b, c, d$  が大きくなるほど、また Q の値が大きいほど、信頼区間は小さくなることがわかる。Q を対照比較する際には、これらの点に留意する必要がある。

これまで、2×2 のクロス集計表から得られる Q について説明してきた。より一般的な  $R \times C$  のクロス集計表から得られる GAMMA についても、考え方は同様である。GAMMA の値の計算はかなり煩雑であり、計算機にまかせることになるが、ここではごく簡単な例を示して、そのロジックと計算法を理解することにする。表・補 9 は、学歴と所得の関連をみようとする、仮想的な 3×3 のクロス集計表である。各 cell には表・補 10 のように名前をつけておく。考え方の筋道は Q の場合とまったく同じで、

表・補 9 学歴と所得との関連：3×3 表の場合  
(仮想のデータ)

所 得 学 歴	低	中	高	計
	50	10	5	65
中 卒 以 下	30	40	45	115
高 校	20	50	50	120
大 学 以 上	100	100	100	300
計				

表・補10 表・補9 の各 cell の名前づけ

学 歴 \ 所 得	低	中	高
中	$a_{11}$	$a_{12}$	$a_{13}$
高	$a_{21}$	$a_{22}$	$a_{23}$
大	$a_{31}$	$a_{32}$	$a_{33}$

“常識に合った組合せ”（Consistent Pairs：CP）の総和と，“常識に反した組合せ”（Inconsistent Pairs：IP）の総和の差を，それら2種の組合せの総和全体で割ることにより，GAMMA は得られる。式で書けば

$$\text{GAMMA} = \frac{\sum \text{CP} - \sum \text{IP}}{\sum \text{CP} + \sum \text{IP}}$$

……式・補(8)

である。

具体的には，まず表・補9において，1行1列目の50，すなわち一番左上の数値から出発する。50にとって，Xつまり学歴に関して1ランク（またはそれ以上）上がり，Yつまり所得に関しても1ランク（またはそれ以上）上がってクロスする consistent pairs（CP）は，2行2列目以降の太い線で囲まれた4つの数値，すなわち40，45，50，50である。表・補10でいえば， $a_{11}$  にとっての  $a_{22}$ ， $a_{23}$ ， $a_{32}$ ， $a_{33}$  である。そこでそれらと50をかけ合わせ，すべてを足し合わせる。ついで1行2列目の数値10に行く。10にとって，学歴で1ランク上がり，所得でも1ランク上がるクロスする CP は45と50，表・補10でいえば， $a_{12}$  にとっての  $a_{23}$  と  $a_{33}$  である。それらと10をかけ合わせて足し算する。つぎに2行1列目の数値30に行く。30にとってクロスする CP は50と50，表・補10でいえば， $a_{21}$  にとっての  $a_{32}$  と  $a_{33}$  である。それらと30をかけ合わせて足し算する。最後に2行2列目の数値40に行く。40にとってクロスする CP は50，記号でいえば， $a_{22}$  にとっての  $a_{33}$  のみである。40と50をかけ合わせておく。CPとしてはこれ以外の組合せは存在しないので，以上のすべてを合計して CP の総和  $\sum \text{CP}$  を得る。



地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

まったく同様の手続きをくり返すことにより， inconsistent pairs (IP) の総和  $\Sigma IP$  を得る。この場合は，表・補 9 の右上の数値から出発するのである。5 にとって，学歴で 1 ランク（またはそれ以上）下がり，所得でも 1 ランク（またはそれ以上）下がる IP は，30，40，20，50 である。記号でいえば， $a_{13}$  にとっての  $a_{21}$ ， $a_{22}$ ， $a_{31}$ ， $a_{32}$  である。これらの数値と 5 をかけ合わせて合計する。ついで  $a_{12}$  の 10 の IP， $a_{23}$  の 45 の IP，最後に  $a_{22}$  の 40 の IP を考えてすべてを足し合わせればよいのである。以上のようにして得られた数値を式・補（8）にあてはめれば，表・補 9 における GAMMA が得られる。実際の計算を下に示す。

$$\begin{array}{rcl} \text{CP:} & 50(40+45+50+50) & = 9250 \\ & 10(45+50) & = 950 \\ & 30(50+50) & = 3000 \\ +) & 40 \times 50 & = 2000 \\ \hline \end{array}$$

$$\Sigma \text{CP} = 15200$$

$$\begin{array}{rcl} \text{IP:} & 5(30+40+20+50) & = 700 \\ & 10(30+20) & = 500 \\ & 45(20+50) & = 3150 \\ +) & 40 \times 20 & = 800 \\ \hline \end{array}$$

$$\Sigma \text{IP} = 5150$$

$$\text{GAMMA} = \frac{15200 - 5150}{15200 + 5150} \doteq 0.49$$

得られた GAMMA の値の解釈は Q の場合と同じで，本文の表 I-1 を参照しながら，学歴と所得との間にはかなり強い関連がある，などと表現することになる。さらに第三のテスト変数を導入すれば，条件 GAMMA が得られて，分析がいっそう深化する点も Q と同様である。なお 2 変数のかけ合わせだけで得られる最初の Q を zero-order Q，そのときの関連を zeroorder 関連 (zero-order correlation)，第三のテスト変数を導入して得られる Q を 1 次の条件 Q (first-order conditional Q)，第四のテスト変数を導入して得られる Q を 2 次の条件 Q (second-order conditional Q) な

どと呼ぶこともある。GAMMA に関しても同様である。GAMMA で注意すべきは、Q の場合と異なり、データは厳密に順序尺度以上（間隔尺度、比率尺度）でなくてはならない点で、名義尺度では数値は意味をなさない。

（クロス集計表を作成して Q や GAMMA を計算する際には、0 になる cell ができないようにする必要がある。また、cell の度数が 5 以下になることは、できるだけ避けるべきである。）

### 参考文献

Davis, J., *Elementary Survey Analysis*, 1971.

Goodman, L. and W. Kruskal, "Measures of Association for Cross Classifications," *Journal of the American Statistical Association*, 1954, Vol. 49, pp. 732-764.

Goodman, L., On the Multivariate Analysis of three Dichotomous Variables, *American Journal of Sociology*, 1965, Vol. 71, pp. 290-301.

大山 正・武藤真介・柳井晴夫『行動科学のための統計学』, 1980.

安田三郎・海野道郎『社会統計学』第 2 版, 1977.

Zeisel, H., *Say It With Figures*, 1957 (木村・安田訳『数字で語る』)

### 補 2 リーダーに対する調査票 (1966.10)

E 1.0 (Q 1) ○○町（村）〔調査地名をいう〕には何年くらい住んでいらっしゃいますか。〔2 度以上にわたりこの土地に住んだことのある人には通算年数をきく〕

1. 1 年未満
2. 1 年以上 3 年未満
3. 3 年以上 10 年未満
4. 10 年以上（生れてからずっとではない）
5. 生れてからずっと → E 26.1 (Q 3) へ
8. その他〔記入〕 \_\_\_\_\_
9. わからない, 無答

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 1.1（Q 2） 「前問で“生れてからずっと”以外のものに」あなたは15歳までの間おもにどういうところで育ちましたか。村ですか，町ですか，市ですか，それともそのいろいろですか。その当時の市，町，村の区分で答えて下さい。

1. おもに村	8. その他〔記入〕 _____
2. おもに町	9. わからない，無答
3. おもに市（東京都23区を含む）	0. 非該当〔前問で“生れてからずっと”のもの〕
4. いろいろ	

E 26.1（Q 3） 「全員にあなたは〇〇市〔各調査地点の道府県庁所在地，ただし東京都三多摩地区のばあいは「都区内」〕に出かけることがありますか。〔あるものに〕週に何回，あるいは月に何回くらいですか。

道府県庁所在地名： _____市（都 区 内）
1. 週1回以上
2. 月1回以上週1回未満
3. 月1回未満
4. 行かない
8. その他〔記入〕 _____
9. わからない，無答

E 26.2（Q 4） 「七大都市の居住者を除く」あなたは東京，横浜，名古屋，大阪，京都，神戸，北九州の各都市のうち，どれかに出かけることがありますか。〔あるものに〕どこにお出かけになることがいちばん多いですか。〔いちばん多い都市について〕週に何回，あるいは月に何回くらい〇〇にお出かけになりますか。



出かけることのいちばん多い都市名_____市（都）
1. 週1回以上
2. 月1回以上週1回未満
3. 月1回未満
4. 行かない
8. その他〔記入〕_____
9. わからない，無答
0. 非該当〔七大都市の居住者〕

E 6.0（Q 5）〔全員に〕〇〇町（村）について，あなたが感じていらっしゃることをうかがいたいと思います。まず，この町（村）のなかで，ここ5年から10年くらいの間にとくに目立って変ったことといえば，どういうことがありますか。おもなものを3つほどあげて下さい。  
〔こういうことが変ったというだけでなく，何がどういうふうに変ったかをきくこと〕。ほかにありませんか〔できるだけ3つ以上あげてもらうこと。回答者が答えた順に1番目の変化は回答欄の6.01欄，2番目は6.02欄，3番目は6.30欄に記入，4番目以下は6.04欄にまとめて列記〕

6.0.1	〔最初にあげられた変化〕
6.0.2	〔2番目にあげられた変化〕
6.0.3	〔3番目にあげられた変化〕
6.0.4	〔4番目以下の変化列記〕 _____

6.0.7 変化はない  
6.0.8 その他〔記入〕 \_\_\_\_\_  
6.0.9 わからない，無答

→ E8.0(Q9)へ

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 6.1（Q 6）〔前問の6.0.1欄の変化についてきく。これが明らかに好ましくない変化であるか、回答者がすでに“困ったことだ”とか“いやだ”とか、それに対する評価を表明したときには、この質問を省略して該当の番号に○印をつけるだけでよい。ただし、この場合でも確認を怠らないこと〕いまおあげになった○○（の変化）は好ましいことだと思えますか、好ましくないことだと思えますか。

1. 好ましい	8. その他〔記入〕 _____
2. 好ましくない	9. わからない，無答
3. どちらともいえない （よい点もわるい点もある）	0. 非該当〔6.0.1 の変化をあげなかつたもの〕

E 6.2（Q 7）〔6.0.2欄の変化についてきく。すでに回答のなかに評価が表明されているときには、該当の番号に○印をつけて、この質問は省略してよい〕それでは、○○（の変化）は好ましいことだと思えますか、好ましくないことだと思えますか。

1. 好ましい	8. その他〔記入〕 _____
2. 好ましくない	9. わからない，無答
3. どちらともいえない （よい点もわるい点もある）	0. 非該当〔6.0.1 の変化をあげないもの〕

E 6.3（Q 8）〔6.0.3欄の変化についてきく。すでに回答のなかに評価が表明されているときは、該当の番号に○印をつけて、質問を省略してよい〕それでは、○○（の変化）は好ましいことだと思えますか、好ましくないことだと思えますか。

1. 好ましい	8. その他〔記入〕 _____
2. 好ましくない	9. わからない，無答
3. どちらともいえない （よい点もわるい点もある）	0. 非該当〔6.0.3 の変化をあげないもの〕

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 8.0（Q 9）　〔全員に〕〇〇町（村）全体の問題，この町（村）の住民全体の問題についてすこしうかがいたいと思います。現在〇〇町（村）でいちばん問題になっていること，この町（村）の人が何とかしてほしいと思っている問題としてはどういうことがありますか〔問題の種類だけでなく，どういう点が問題なのかを具体的にきくこと〕。〔2つ以上の問題があげられたら〕なかでもいちばん重要なものはどれですか。〔かならず1つを選ばせ，その番号を○印でかこむ〕

1.	1 番目の問題〔記入〕	_____	
2.	2 番目の問題〔記入〕	_____	
3.	3 番目の問題〔記入〕	_____	
4.	4 番目の問題〔記入〕	_____	
5.	5 番目の問題〔記入〕	_____	
7.	問題はない	} → E 19.0（Q18）へ	
8.	その他〔記入〕		_____
9.	わからない，無答		_____

E 17.0（Q10）　〔前問で問題をあげたものに〕そういう問題について，この町（村）の一般の人たちはどう考えているとお思いですか。この町（村）に住んでいる人の大部分がこの問題の成行を気にしていると思いますか，それとも大部分の人は気にしていないと思いますか。

1.	気にしている	8.	その他〔記入〕	_____
2.	気にしていない	9.	わからない，無答	
3.	一部に気にしているひともある	0.	非該当〔E 8.0（Q 9）で7.8.9のもの〕	



地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E13.0（Q11）　〔E17.0（Q 10）をきいたものに〕　こういう問題は、一般的にいつて、この〇〇町（村）のなかだけで解決できる問題だと思いますか。それとも外の力に頼らなければ解決できない問題だと思いますか。

1. なかだけでできる	8. その他〔記入〕 _____
2. 外の力が必要	9. わからない、無答
3. 両方必要	0. 非該当〔E8.0（Q 9）で7.8.9のもの〕
4. 解決の見込みなし	

E14.0（Q12）　〔E13.0（Q 11）を聞いたひとに〕　この町（村）のなかでは誰がいちばんこういう問題を解決する力をもっていると思いますか。個人，グループ，団体，その他何でも結構ですから，あなたがこういう問題を解決するうえで，いちばん大きな力をもっているとお思いになるのをあげて下さい。〔回答の順に，1番目にあげられたものを14.0.1 欄に，2番目にあげられたものを14.0.2 欄に記入，3番目以下は14.0.3 欄にまとめて列記〕

	解決する力をもっている地域内の人または団体
14.0.1	〔記入〕
14.0.2	〔記入〕
14.0.3	〔列記〕

14.0.7　そういう力をもつものなし  
14.0.8　その他〔記入〕 \_\_\_\_\_  
14.0.9　わからない、無答  
14.0.0　非該当〔E8.0（Q 9）で7.8.9のもの〕

→ E15.0（Q15）へ

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 14.1（Q13）〔14.0.1 欄であげられた個人，グループ，団体などについて〕○  
○〔その個人，グループ，団体〕は実際にこの問題の解決に必らず  
力をつくすだろうと思いますか，あまり期待はできませんか，それ  
とも全然期待できないと思いますか。

1. 必らず力をつくす	8. その他〔記入〕 _____
2. あまり期待できない	9. わからない，無答
3. 全然期待できない	0. 非該当〔14.0.1を答えないもの〕

E 14.2（Q14）〔14.0.2 欄であげられた個人，グループ，団体などについて〕○  
○〔その個人，グループ，団体〕は実際にこの問題の解決に必らず  
力をつくすだろうと思いますか，あまり期待はできませんか，それ  
とも全然期待できないと思いますか。

1. 必らず力をつくす	8. その他〔記入〕 _____
2. あまり期待できない	9. わからない，無答
3. 全然期待できない	0. 非該当〔14.0.2を答えないもの〕

E 15.0（Q15）〔E 14.0（Q 12）をきいたひとに〕この町（村）の外で，こうい  
う問題を解決する力を持っているのは誰だと思いますか。個人で  
も，団体でも，その他の何でも結構ですから，そういう力を持っ  
ていると思われるものをあげて下さい。〔回答の順に，1 番目にあげら  
れたものを15.0.1欄に， 2 番目にあげられたものを15.0.2欄に， 3  
番目以下は15.0.3欄にまとめて列記〕

	地域の外で，解決する力をもつ人またはグループ
15.0.1	〔記入〕
15.0.2	〔記入〕
15.0.3	〔列記〕

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

15.0.6	そういう力をもつものはない	→ E 19.0（Q18）へ
15.0.7	外の力では解決できない，外の力は要らない	
15.0.8	その他〔記入〕 _____	
15.0.9	わからない，無答	
15.0.0	非該当〔E 8.0（Q 9）で7.8.9のもの〕	

E 15.1（Q16）　〔15.0.1 欄であげられた個人，団体などについて〕○○〔その個人，団体〕はこういう問題の解決に必らず力のかしてくれるだろうと思いますか，あまり期待はできませんか，それとも全然期待できないと思いますか。

1.	必らず力のかしてくれる	8.	その他〔記入〕 _____
2.	あまり期待できない	9.	わからない，無答
3.	全然期待できない	0.	非該当〔15.0.1を答えないもの〕

E 15.2（Q17）　〔15.0.2 欄であげられた個人，団体などについて〕○○〔その個人，団体〕はこういう問題の解決に必らず力のかしてくれるだろうと思いますか，あまり期待はできませんか，それとも全然期待できないと思いますか。

1.	必らず力のかしてくれる	8.	その他〔記入〕 _____
2.	あまり期待できない	9.	わからない，無答
3.	全然期待できない	0.	非該当〔15.0.2 を答えないもの〕



地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 19.0（Q18） 「全員に」ところで、あなたはこの町（村）の一般の人たちの気持ちとか、その人たちのもっている要求や問題とかを、どういうふうにして知りますか。

要求や問題を知る方法〔記入〕

1.
2.
3.

8. その他〔記入〕  
9. わからない、無答

E 9.0（Q19） それではこの町（村）のいろいろな問題のなかで、あなた御自身がこのところとくに熱心に奔走もし、骨も折っているという問題がありますか。ありましたら2つほどあげて下さい。〔3つ以上あげた場合〕 この中で重要なもの2つを選ぶとしたらどれですか。〔選ばれた問題の番号を○でかこむ〕

1.	1 番目の問題〔記入〕
2.	2 番目の問題〔記入〕
3.	3 番目の問題〔記入〕
4.	4 番目の問題〔記入〕
5.	5 番目の問題〔記入〕

7. そういう問題はない  
8. その他〔記入〕  
9. わからない、無答

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 10.0（Q20） あなたは現在この町（村）の問題を解決するための活動にどのくらい時間を割いておいでですか大部分の時間をそのために使っていますか、かなりの時間を使っていますか、それとも比較的わずかの時間しか使っていないですか。

1. 大部分の時間

2. かなりの時間

3. わずかの時間

4. 全然使っていない

8. その他〔記入〕

9. わからない、無答

→ E 11.0（Q22）へ

E 10.1（Q21）〔前問で1.2.3のものに〕その際のあなたのお仕事としては、おもにどういうことがありますか（どういう面でとくに努力をされていますか）、なるべく具体的におっしゃって下さい。

1. 仕事〔具体的に記入〕

7. とくになし

8. その他〔記入〕

9. わからない、無答

0. 非該当〔E 10.0（Q20）で4.8.9のもの〕

E 11.0（Q22）〔全員に〕あなたはこれまでにこの町（村）の何かの問題について、対策を練ったり、解決を促進したり、あるいは運動を進めたりするために、新しいグループや団体を組織されたことがありますか。

1. ある

2. ない

8. その他〔記入〕

9. わからない、無答

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 12.1, 12.2（Q23）　〔リストを見せて〕町や村の責任ある地位にいるかたがたは、その地域の問題の解決のためにいろいろなことをしなければなら  
ないと思いますが、そのうちおもな役目として、ここに書かれて  
いる3つのことがらを考えた場合、あなたはそのうちどれがいちば  
ん大切だとお思いですか。〔いちばん大切なものに○印〕では、こ  
の中でいちばん重要でないとお思いになるのはどれですか。〔×印  
を附ける〕

	いちばん 大切なも のに○印	いちばん重 要でないも のに×印
1. 地域内の重要な問題を人びとに自覚させ、わからせるよう積極的に努力する		
2. 地域の人びとが問題を持ち込んでくるごとにそれを解決していく		
3. 地域内のいろいろなグループや派閥の間の意見の違いや争いをまるく納める		
4. どれも重要（大切）		
5. どれも重要（大切）でない		
8. その他〔記入〕 _____		
9. わからない，無答		

E 16.0（Q24）　この町（村）の一般の人たちは、全体として、この町（村）のか  
かえている問題を自分たちの手で何とかしようとする意欲をもっ  
ているとお思いですか。

1. もっている
2. もっていない
3. もっているものも、いないものもある
8. その他〔記入〕 _____
9. わからない，無答

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 20.0, 20.1（Q25） この町（村）の人たちが、自分たち自身の個人的な問題や地域（部落や隣組など）の問題について、あなたのところに相談にきたり、力添えを頼みにきたりすることがありますか。〔あるものに〕そのひとたちが持ってくる問題はどのようなものが多いですか、（おもにどのような問題をもってきますか）。

	も っ て く る 問 題〔記入〕	
1 あ り	1.	_____
	2.	_____
	3.	_____
	4.	_____
	5.	_____
3. こない		
8. その他〔記入〕 _____		
9. わからない，無答		

E 21.0（Q26） あなたはこの町（村）の問題について、都（道府県庁）の役人や都（道府県）会議員，あるいは中央官庁の役人や国会議員などと会って、相談したり，接衝したりする機会がありますか，そういう機会はたびたびありますか，ときおりですか，それともめったにありませんか。

1.	たびたびある
2.	ときおりある
3.	めったにない _____
4.	全然ない
8.	その他〔記入〕 _____
9.	わからない，無答 _____

→ E 22.0（Q29）へ



地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 21.1（Q 27）　〔前問で機会が“たびたびある”“ときおりある”ものに〕相談や接衝の相手はおもにどういう人ですか。〔中央・地方の別，官職の階級などがわかるよう，具体的にいってもらい，記入後該当番号を○印でかこむこと〕

相談の相手〔記入〕
1. 国会議員
2. 都道府県会議員
3. 上級国家公務員（課長以上）
4. 下級国家公務員（課長補佐以下）
5. 上級地方公務員（課長以上）
6. 下級地方公務員（課長補佐以下）
7. 上記 1～6 に該当しないもの（委員，教育職など）
8. その他（相談の相手が明確でないばあいなど）〔記入〕 _____
9. わからない，無答
0. 非該当〔E 21.0（Q 26）で3. 4. 8. 9のもの〕

E 21.2（Q 28）　〔前問をきいたものに〕そういう場合，たいてい1度で用が足りますか，それとも何度も足を運ばなければならないことが多いですか。

1. たいてい1度で用が足りる
2. たいてい何度も足を運ばなければならない
3. そのときによる
8. その他〔記入〕 _____
9. わからない，無答
0. 非該当〔E 21.0（Q 26）で3. 4. 8. 9のもの〕

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 22.0（Q29） 「全員に」かりにあなたが誰か都道府県庁や中央官庁の地位の高い役人に会う用事ができたとしてまだその人と面識がないといった時には、誰かのつて（コネ）を頼って紹介してもらう必要があると思いますか、それとも、じかにぶつかってすぐ会ってもらえると思いますか。

1. つて（コネ）が必要	
2. 場合（事情）による「どういう事情かを具体的に記入する」	_____
3. すぐ会える	_____
8. その他「記入」	_____
9. わからない、無答	_____

→ E 34.0（Q32）へ

E 22.1（Q30） 「前問で“つてが必要”および“場合（事情）による”と答えたものに」そういう場合、あいだに立って紹介してくれるような人がわけなくみつきりそうですか、そう簡単にはみつきらないと思いますか、それともそういう人をみつけるのは非常にむづかしいと思いますか。

1. わけなくみつかる	
2. そう簡単ではない	
3. 非常にむづかしい	_____
8. その他「記入」	_____
9. わからない、無答	_____
0. 非該当「前問で3.8.9のもの」	

→ E 34.0（Q32）へ

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 22.2（Q31）　〔前問で“わけなくみつかる”“そう簡単ではない”と答えたものに〕あいだに立って紹介してく人れるとして、さしあたりあなたが思いつくのはどういう人ですか、親戚すじのかたですか、それともほかのどういう関係のかたですか。

1. 親戚，家族	8. その他〔記入〕 _____
2. 同郷の人	9. わからない，無答
3. 学校の同窓（先輩，後輩）	0. 非該当〔前問で1.2以外のもの〕
4. 友人	〔M. A〕

E 34.0（Q32）　〔全員に〕この町（村）の住民の願っていること，必要としていることを，一般的にいて〇〇〔調査地域の所属する都道府県名をいう〕の役人や議員たちは十分に理解していると思いますか，それともあまり理解していないと思いますか。

1. 十分に理解している	8. その他〔記入〕 _____
2. あまり理解していない	9. わからない，無答
3. 事柄による	

E 33.0（Q33）　では，日本の国の政治を動かしている人たちが，国民の願っていること，必要としていることを十分に理解していると思いますか，それともあまり理解していないと思いますか。

1. 十分に理解している	8. その他〔記入〕 _____
2. あまり理解していない	9. わからない，無答
3. 事柄による	

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 23.1（Q34） ところであなたは、いろいろな政治問題や日本の現状などについての知識を、おもにどのようなものから得ますか、あるいはどのようなふうにして仕入れますか。〔1つだけあげたものに〕ほかにありませんか〔最初の2つだけについて該当数字を○字でかこむ〕。

	E 23.1.1 (第1のメディア)	E 23.1.2 (第2のメディア)
新 聞	1	1
ラ ジ オ・テ レ ビ	2	2
雑 誌	3	3
政 府 刊 行 物	4	4
人 の 話	5	5
な し	7	7
そ の 他	8〔記入〕 _____	8〔記入〕 _____
わからない，無答	9	

E 24.1（Q35） あなたは誰かと政治的なことがらを話題にしたり議論したりすることがありますか。〔あるものに〕そういうことは毎日ありますか，週に何回という程度ですか。〔ないものに〕全然ありませんか，それとも週に1度ぐらいはありますか。

1. 毎日	→ E 30.0（Q37）へ
2. 週に何回	
3. 週1度ぐらい	
4. 全然ない _____	
8. その他〔記入〕 _____	
9. わからない，無答 _____	



地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 24. 2（Q 36）　〔前問で1. 2. 3のものに〕あなたが政治について話したり議論したりする相手はおもにどういう人ですか。〔3つ以上あげた場合、最初の2つの相手のみについて該当数字を○印でかこむ〕

	E 24. 2. 1 (第1の相手)	E 24. 2. 2 (第2の相手)
身内のもの(妻, 家族など)	1	1
職場(仕事)の同僚	2	2
友 人	3	3
近 所 の 人	4	4
政 治 家 や 役 人	5	5
		7〔第2の相手なし〕
そ の 他	8〔記入〕 _____	8〔記入〕 _____

わからない, 無答 9

非該当〔前問で4. 8. 9のもの〕 0

E 30. 0（Q 37）　〔全員に〕あなたは何党を支持しますか。〔2つ以上の政党をあげたばあい〕どちらの政党をより強く支持しますか〔1つだけ選べる〕

1. 自民党	7. 支持なし	→ E 30. 2(Q 39)へ
2. 社会党	8. その他〔記入〕 _____	
3. 民社党	9. わからない, 無答 _____	
4. 公明党		
5. 共産党		
6. その他の政党〔記入〕 _____		

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 30.1（Q38）　〔前問で支持政党をあげたものに〕熱心な支持者ですか。

1. 熱心

2. 熱心でない

8. その他〔記入〕

9. わからない，無答

0. 非該当〔前問で7.8.9のもの〕

→ E 37.1（Q40）へ

E 30.2（Q39）　〔E 40.0（Q37）で“支持なし”“その他”“わからない，無答”のものに〕しいていえばどの政党が好きですか。ひとつだけあげて下さい。

1. 自民党

2. 社会党

3. 民社党

4. 公明党

5. 共産党

6. その他の政党〔記入〕

7. 好きな政党なし

8. その他〔記入〕

9. わからない，無答

0. 非該当〔E 30.0（Q37）で支持政党をあげたもの〕

E 37.1（Q40）　〔全員に〕次にあなたが入っていらっしゃる団体や組合といったものについてうかがいますが，まず，あなたは町内会，婦人会，青年団，PTA，県人会といった団体の会員になっておいでですか。  
〔会員になっているものに〕何という団体ですか，団体の正式の名称をおっしゃって下さい。〔正式名称だけでその団体の性格がはっきりしないときは，どういう目的の団体か確かめそのとおり記入する〕

E 37.2, 27.3（Q41）　労働組合とか同業者の組合，職業団体などに加入していらっしゃいますか〔入っているものに〕何という団体ですか。

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E37.5（Q42）　〇〇教会，〇〇講といった宗教的な団体に入っておいでですか。  
〔入っているものに正式名称をきく〕

E37.6（Q43）　政治的な団体には入っていらっしゃいますか。〔入っているものに正式名称をきく〕

E37.4（Q44）　それ以外に，スポーツやレクリエーションや趣味の会，その他同好者のサークルなどの会員になっっていますか。〔なっていれば〕 どのような目的の会ですか。

E37.8（Q45）　それ以外に何かの団体の会員になっっていますか。〔なっていれば〕 どのような団体ですか。

E38.0（Q46）　〔E37.1（Q40）からE37.8（Q45）で何かの団体に加入しているものに〕 いまおあげになったグループや団体のなかで，この町（村）の問題の解決に積極的に取り組んでいるものがありますか。  
〔あるものに，回答者の加入している団体名をもう1度よみあげて〕  
べれはこの中のどれですか。〔該当欄に○印〕

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E37.1（Q40）からE38.0（Q46）までの回答を下の回答欄にまとめて記入		
団 体 種 別	団 体 名 称	E38.0（Q46） （該当○印）
E37.1（Q40） （町内会など）		
E37.2, 27.3（Q31） （職業団体）		
E37.5（Q42） （宗教団体）		
E37.6（Q43） （政治団体）		
E37.4（Q44） （スポーツ趣味などの団体）		
E37.8（Q45） （その他の団体）		
7. 加入団体なし 8. その他〔記入〕 9. わからない、無答		7. 該当団体なし 8. その他〔記入〕 9. わからない、無答 →0. 非該当



地方リーダーと一帯有権者（一）（大石）

E 39.1（Q47）　〔全員に〕それではこの町（村）のなかにいまあげたような団体はいくつくらいありますか。大体の数をお教え下さい。まず、町内会、婦人会、青年団、PTA、県人会といった団体はいくつくらいありますか。〔それぞれ1つずつある、といった回答の場合には、この種の団体は6つくらいと判断する〕

1. な し	4. 3つ以上
2. 1 つ	8. その他〔記入〕 _____
3. 2 つ	9. わからない、無答

E 39.2, 39.3（Q48）　では、つぎの労働組合とか同業者の組合、職業団体などは、この町（村）のなかにいくつくらいありますか。

1. な し	4. 3つ以上
2. 1 つ	8. その他〔記入〕 _____
3. 2 つ	9. わからない、無答

E 39.5（Q49）　教会や講などの宗教団体はいかがでしょう。この町（村）のなかにいくつくらいありますか。

1. な し	4. 3つ以上
2. 1 つ	8. その他〔記入〕 _____
3. 2 つ	9. わからない、無答

E 39.6（Q50）　政治団体はいかがでしょう。この町（村）のなかにいくつくらいありますか。

1. な し	4. 3つ以上
2. 1 つ	8. その他〔記入〕 _____
3. 2 つ	9. わからない、無答

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 39. 4（Q51） では、スポーツ、レクリエーション、趣味の会、同好者のサークルといったものは、この町（村）のなかにいくつくらいありますか。

1. な し	4. 3つ以上
2. 1 つ	8. その他〔記入〕 _____
3. 2 つ	9. わからない、無答

E 39. 8（Q52） それ以外に、何か団体や組合などの組織がこの町（村）のなかにあるでしょうか。〔あった場合〕それは全部でいくつくらいありますか。

1. な し	4. 3つ以上
2. 1 つ	8. その他〔記入〕 _____
3. 2 つ	9. わからない、無答

E 42. 0（Q53） あなたは何か宗教を信じていらっしゃいますか。〔信じているものに〕どの宗教ですか。〔仏教，キリスト教，神道を答えたものに〕どの宗派ですか。〔下記の宗教のどれに属するか 不明の場合は相手にきいて確かめる〕

1. 仏教〔宗派名記入〕 _____	
2. 創価学会	
3. キリスト教〔宗派名記入〕 _____	
4. 神道〔宗派名記入〕 _____	
5. その他の宗教〔記入〕 _____	
7. 信じていない	
8. その他〔記入〕 _____	} → F 1 へ
9. わからない、無答	

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 42. 1. 0（Q54）　〔前問で1.2.3.4.5のものに〕あなたにとって、宗教を信じることはどのくらい大切ですか。非常に大切ですか、かなり大切ですか、それともあまり大切とはいえませんか。

1. 非常に大切	8. その他〔記入〕 _____
2. かなり大切	9. わからない，無答
3. あまり大切でない	0. 非該当〔前問で7.8.9のもの〕

E 44. 0（F 1）　〔全員に〕性別

1. 男
2. 女

E 43. 0（F 2）　あなたのお年は満で何歳ですか。〔何歳と答えたもの以外はその他のところに相手の回答を正確に記入〕

満 _____ 歳
8. その他〔記入〕
9. わからない，無答

E 27. 0（F 3）　あなたが最後にお出になった学校はどこですか。〔学校名，学部，学科，専門部，専攻科の区別などを詳しく記入し，回答欄の1—7までのいずれかに○印をつける。

学校名など〔記入〕 _____
1. 大学
2. 旧高専
3. 短大
4. 新高，旧中
5. 新中，旧高小
6. 小学校
7. な し

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

8. その他〔記入〕

9. わからない、無答

E 2.1（F 4）〔農協，商工会の長および専務または参事に〕

- a) あなたは現在，農協（商工会）のお仕事のほかに国家公務員または地方公務員の職についていらっしゃいますか。
- b) 国または地方自治体が委嘱する委員をやっていらっしゃいますか。
- c) 国会，都道府県議会，市町村議会などの議員を現在やっていらっしゃいますか。

〔公職名を具体的に記入した後，公職コード欄の該当番号を○でかこむこと〕。

〔2つ以上の職についているものに対して〕あなたにとっていちばん重要な公職は，そのうちのどれですか。〔いちばん重要と答えたものの該当番号に◎をつける〕

- a) 公務員職名〔詳細に記入〕
- b) 委 員 名〔詳細に記入〕
- c) 議 員 名〔詳細に記入〕
- d) その他の公職〔詳細に記入〕

公職コード

2. 国会議員

3. 地方議会議員（都道府県，市町村などの議会議員）

4. 上級国家公務員（課長以上）

5. 下級国家公務員（課長補佐以下）

6. 上級地方公務員（課長以上）

7. 下級地方公務員（課長補佐以下）

8. その他の公職（委員，教育職などを含む）

M. A.



地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

1. なし

9. わからない，無答

0. 非該当〔農協，商工会の長および専務または参事のいずれでもないもの〕

E 2.0（F 5）　〔前問をきいたひとに〕では，これまでに，いま申しあげたような公職〔必要に応じてE2.1（F 4）でたずねた公職の種類を繰り返すこと〕についてありますか。〔あるものに〕それは何ですか。

〔公職名を具体的に記入した後，公職コード欄の該当番号を○で囲む〕

a) 公務員職名〔詳細に記入〕

b) 委 員 名〔詳細に記入〕

c) 公 職 名〔詳細に記入〕

d) その他の公職〔詳細に記入〕

公職コード

2. 国会議員

3. 地方議会議員（都道府県，市町村（郡）などの議会議員）

4. 上級国家公務員（課長以上）

5. 下級国家公務員（課長補佐以下）

6. 上級地方公務員（課長以上）

7. 下級地方公務員（課長補佐以下）

8. その他の公職（委員教育職などを含む）

[M. A.]

1. なし

9. わからない，無答

0. 〔農協，商工会の長および専務または参事のいずれでもないもの〕

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

E 2.2（F 6）　〔町・村長，町・村会議員，教育長，中学校長に〕あなたは現在，何かの組合や団体の役員をしていらっしゃいますか〔しているものに〕 どのような組合または団体ですか〔組合・団体名を具体的に記入した後，組合，団体コード欄の該当番号を○で囲む〕

組合，団体名〔団体の種別があきらかになるように記入すること〕	
2. 協同組合，産業組合（商工会など）	〔M. A.〕
3. 市民団体	
4. 労働組合	
5. 職能団体（医師会など）	
6. それ以外の団体	
1. なし	
8. その他〔記入〕	_____
9. わからない，無答	
0. 非該当〔町・村長，町・村会議員，教育長，中学校長のいづれでもないもの〕	

E 2.3（F 7）　〔前問をきいたひとに〕では，これまでに，何かの組合や団体の役員をなさったことがありますか。〔あるものに〕それはどのような組合または団体ですか。〔組合，団体名を具体的に記入した後組合・団体コード番号を○で囲む。〕

組合・団体名〔団体の種別があきらかになるように記入すること〕	
組合・団体コード	
2. 協同組合，産業組合（商工会など）	
3. 市民団体	

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

4. 労働組合	
5. 職能団体（医師会など）	
6. それ以外の団体	[M. A.]

1. なし	
8. その他〔記入〕	
9. わからない，無答	
0. 非該当〔町・村長，町・村会議員，教育長，中学校長のいづれでもないもの〕	

E 3.0 (F 8) 〔町・村長，町村会議員に〕あなたは町（村）長，町（村）会議員のほかに，何か職業をおもちですか。〔もっているものに〕どういうお仕事ですか〔仕事の内容を具体的に記入した後，該当コード番号を○でかこむ〕。〔2つ以上ある場合〕このなかでどれがいちばんおななお仕事ですか〔1つだけ選ばせ○でかこむ〕

〔仕事の内容を具体的に記入〕	

1. 勤め人	
2. 商工業自営業主	
3. 商工業家族従業者	
4. 農林業自営主	
5. 農林業家族従業者	
6. 漁業自営業主	
7. 漁業家族従業者	
8. 主婦	[M. A.]

12. その他〔記入〕	
13. ほかの職業なし	
0. 非該当〔町・村長，町・村会議員のいづれでもないもの〕	

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

- E 3.1 (F 9)   〔教育長，中学校長に〕教育関係のお仕事をする前に，何か別のお仕事をなさったことがありますか。〔あるものに〕それは何でしたか〔仕事の内容を具体的に記入した後，該当コード番号を○で囲む〕。〔2つ以上の場合〕いちばんおもなお仕事はどれでしたか〔1つだけ選ばせ○で囲む〕

〔仕事の内容を具体的に記入〕	
<hr/>	
1. 勤め人	
2. 商工業自営業主	
3. 商工業家族従業者	
4. 農林業自営主	
5. 農林業家族従業者	
6. 漁業自営業主	
7. 漁業家族従業者	
8. 主婦	[M. A.]
12. その他〔記入〕 <hr/>	
13. 現在の職業と同じ	
0. 非該当〔教育長，中学校長のいずれでもないもの〕	

- E 4.0 (F 10)   〔全員に〕あなたが最初におつきになったご職業はどういうものでしたか。ただし，アルバイトでやっていた仕事は除いて考えて下さい。〔現在の職業と違うばあいには，業種，職種がわかるよう詳しく書くこと〕

1. 現在と同じ
2. 現在とは違う〔職業内容を詳しく記入〕 <hr/>
7. 職業についてたことなし



地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

8. その他〔記入〕

9. わからない，無答

E 5.0（F11） あなたが生れてから15歳くらいになるまでのあいだ，あなたのお父さんはどういう職業についておいででしたか。〔2つ以上あげられたら，全部記入したのち，重要度，期間などの点でどれがいちばんおもであったかをきき，○でかこむ〕

1. 父の職業〔できるだけ詳しく記入〕

8. その他〔記入〕

9. わからない，無答

E 28.0（F12） あなたご自身の手取り収入〔必要があれば純収入ときく〕は年に大体どのくらいですか。〔年で答えにくいときは月いくらかきく〕

年収\_\_\_\_\_円（月収\_\_\_\_\_円）

(年 収)

1. 10万円未満

2. 20万円未満

3. 30万円未満

4. 40万円未満

5. 50万円未満

6. 60万円未満

7. 70万円未満

8. 80万円未満

9. 90万円未満

10. 100万円未満

11. 200万円未満

12. 300万円未満

13. 300万円以上

14. その他〔記入〕

15. わからない，無答

16. 収入なし

〔あいさつ〕 長いあいだどうもありがとうございました。

地方リーダーと一般有権者（一）（大石）

〔調査員記入事項〕

1. （E 47. 0） 面接の場所
2. （E 48. 0） 成人の同席者の有無

1. 回答者の自宅

2. 回答者の職場

3. 公開の場所  
（街頭，喫茶店内，など）

8. その他〔記入〕 \_\_\_\_\_

1. 成人同席者なし

2. 成人同席者あり（発言なし）

3. 成人同席者あり（発言あり）

3. （E 49. 0） 面接のために他人の許可を必要としたか。

1. 他の家族の許可を必要とした。

2. 雇用者の許可を必要とした。

3. 地域の有力者の許可を必要とした。

4. その他の許可を必要とした  
〔記入〕 \_\_\_\_\_

5. 不必要であった。

4. （E 50. 0） 協 力 度

1. 非常に協力的

2. 協力的だがあまり関心はなさそう

3. 非協力的

5. （E 54. 0） 面接員の感想

a 〔もしあれば〕 面接を困難にするような回答者の特徴〔記入〕  
\_\_\_\_\_

b 〔もしあれば〕 とくに面接に影響するような環境条件〔記入〕  
\_\_\_\_\_

c その他，この面接について特記すべき事項〔記入〕  
\_\_\_\_\_